美しい時代へ――東急グループ

東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

工学部／知識工学部／環境学部／メディア情報学部／都市生活学部／人間科学部

大学案内 2016

超える、つながる、その夢に。

東京都市大学は、学生と教職員とがつながり、
ボーダーを超えて世界に向かって大きな夢に挑戦しています。

工学部

- 機械工学科
- 機械システム工学科
- 原子力安全工学科
- 医用工学科
- 電気電子工学科
- エネルギー化学科
- 建築学科
- 都市工学科

知識工学部

- 情報科学科
- 情報通信工学科
- 経営システム工学科
- 自然科学科

環境学部

- 環境創生学科
- 環境マネジメント学科

メディア情報学部

- 社会メディア学科
- 情報システム学科

都市生活学部

- 都市生活学科

人間科学部

- 児童学科

大学院

- 工学研究科
- 環境情報学研究科

研究所

- 総合研究所
- 原子力研究所

HISTORY

昭和　4年	●武蔵高等工科学校として創立
昭和24年	**●学制改革により武蔵工業大学に昇格**
昭和30年	●学校法人東横学園を合併して法人名を五島育英会と改称
昭和35年	●原子力研究所開所
昭和41年	●大学院工学研究科修士課程を開設
昭和43年	●大学院工学研究科博士後期課程を開設
昭和54年	●情報処理センター（現:情報基盤センター）開所
平成　4年	●水素エネルギー研究センター開所
平成　9年	●環境情報学部環境情報学科を開設
平成10年	●日本の大学として初の環境マネジメントシステム環境ISO14001の認証を取得（環境情報学部）
平成13年	●大学院環境情報学研究科修士課程を開設
平成16年	●総合研究所開所
平成17年	●大学院環境情報学研究科博士後期課程開設
平成19年	●知識工学部を開設 ●室蘭工業大学と包括連携協定を締結
平成20年	●昭和大学、多摩美術大学と包括連携協定を締結
平成21年	**●東京都市大学と大学名を改称** ●都市生活学部都市生活学科を開設 ●人間科学部児童学科を開設
平成22年	●大学院工学研究科共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設
平成25年	●環境情報学部を改組し、環境学部、メディア情報学部を開設
平成26年	●日本科学未来館と包括連携協定を締結 ●東京都市大学歴史展示コーナーを開設
平成27年	●世田谷区と包括協定を締結 ●「夢キャンパス」を開設（二子玉川ライズ・オフィス）

学長メッセージ

世界に目を向け、持続可能な未来づくりへ東京都市大学の新しい時代がはじまっています。

『夢に翼を』と題された東京都市大学グループの学園歌があります。平成21年4月のグループ誕生を祝し、幼稚園から大学、大学院までを網羅する都市大グループ全体を象徴する楽曲として生まれたものですが、そこには「未来を目ざす心意気 不滅の精神を学ぶなり 香る個性の煌きに 明日の英知を磨き合う 双手に燃える青春の 夢に翼を 夢に翼を」と謳われています。本学の前身であり、昭和4年に生まれた武蔵工業大学と、昭和13年創立の東横学園女子短期大学の歴史と伝統を継承しながら、未来を担う卓越した人材を生みださんとする、新生東京都市大学の理想と心意気とがそこには込められているのです。

現在本学では中長期計画『アクションプラン2030』に基づく大胆な大学改革に取り組んでいるところです。このアクションプランでは、平成31年の創立90周年、平成41年の創立100周年を視野に、教育、研究、大学運営、キャンパス環境向上など、すべてにおける本学の近未来像を明示しています。そこに示された目標は、「国際都市東京で存在感を示す有数の私立大学」となり、世界標準の大学として「世界ランキング300位以内」を実現すること。これを達成するには、国際人にふさわしいグローバルな視座と教養、実践的な専門性の獲得に直結する独自の教育、研究活動を展開しなければなりません。

具体的な取り組みの一つとして、本学では、「実践力を有する専門性を持った国際人」を輩出すべく、平成27年度の入学者より、『TAP（Tokyo City University Australia Program）』を開始しています。TAPは豪州パースの公立エディスコーワン大学（ECU）における5ヶ月間におよぶ留学をコアとする、入学から卒業までを通じた国際人育成プログラムです。多くの海外留学に見られる、受け入れ大学側によるパッケージプログラムと異なり、参加学生が真に国際性を身につけることができるよう、ECUと本学とが共同でテーラーメイドのカリキュラムを開発した点に、その最大の特色があります。私たちは、平成28年度入学生以降も、このTAPをさらに強化・発展させていく予定です。またTAPに加えて、国際インターンシップや語学研修など、多彩なプログラムを用意しています。

高等教育機関である大学には、教育研究内容を不断に錬磨していく責務があります。教育効果の尺度は、入学してから卒業するまでにどれほど能力を高めることができたか、ということであり、そのような観点からの「Best Value University」となるべく、国際力の強化策に加え、今後も本学はさらなる改革にチャレンジしてまいります。

国際都市である東京・横浜の極めて良好な文化的環境に立地する東京都市大学。そのすべての学生、教職員、卒業生が大きな夢を持ち、実現できる場として、都市大は進化し続けてまいります。未来に向かい、夢に向かって、翼を広げ、ともに羽ばたきましょう。

東京都市大学 学長　三木千壽

ビジョン実現のための中長期計画「アクションプラン2030」を策定

2009年度に幅広い教育研究領域を網羅する総合大学として新たにスタートし、5年の節目を迎えた2013年度、さらなる進化に向け中長期計画「東京都市大学アクションプラン2030」を策定いたしました。2020年問題に象徴される18歳人口の減少や、急速に進展するグローバル化への対応など教育機関を取り巻く環境が厳しくなる中、創立90周年（2019年）および創立100周年（2029年）への持続的発展を見据え、4つのプロジェクトを計画的に推進し、将来ビジョンを実現しながら社会に貢献してまいります。

教育の質保証	グローバル社会で活躍できる人材を育成するためのプログラムとシステムの確立
キャンパス教育環境向上	実学教育の伝統を生かした学習環境と世界の学生が集えるキャンパスの実現
ブランド力向上	教育研究、環境、運営が連動し醸成される先進感と信頼感溢れる都市大ブランド力の確立
大学運営向上	さらなる教育研究の発展を推進する運営体制の確立

VISION
国際都市東京で
存在感を示す
有数の私大

実践的な専門性を有した国際人を育成する
東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）

TAPは、1年次の準備教育と、2年次の約5ヶ月間のオーストラリア留学を合わせた本学独自の国際人育成プログラムです。1年次の準備教育にはネイティブ講師による少人数制の語学準備講座と留学準備研修会があります。これにより語学力と国際性を身に付けた上で、オーストラリアのエディスコーワン大学（ECU）に留学します。ECUでは、世界中の留学生が集まる学生寮で生活しながら、英語科目と都市大とECUが共同開発した教養科目を学びます。留学しても休学する必要がなく、4年間での卒業が可能で、奨学金などの支援も充実しています。

国際都市パースの中心部

エディスコーワン大学のキャンパス

留学準備研修会

［後 援］
西オーストラリア州政府

［協 力］
エディスコーワン大学
CRICOS IPC 00279B

都市大リケジョがキッコーマン飲料とドリンクを開発

知識工学部自然科学科の女子学生5名とキッコーマン飲料（株）が共同開発した「デルモンテ 花つぼみ ローズウォーター」は、甘さ控えめ、カロリーゼロのバラの香りドリンク。フレーバーはもちろん、商品名やパッケージデザインに至るすべてに学生たちが関与。学生の創造力が実現した新しい形の産学連携です。

世田谷区と包括協定を締結し
地域社会の持続的な発展に貢献します

本学と東京都世田谷区は、平成27年3月、包括協定を締結。これまでもさまざまな分野で協力してきた両者が、さらにパートナーシップを強化し、人的交流の促進や資源の相互活用、調査・研究の協働などを通じ、地域社会の課題解決に挑戦します。すでに等々力渓谷の清流化など、具体的な施策もスタートしています。

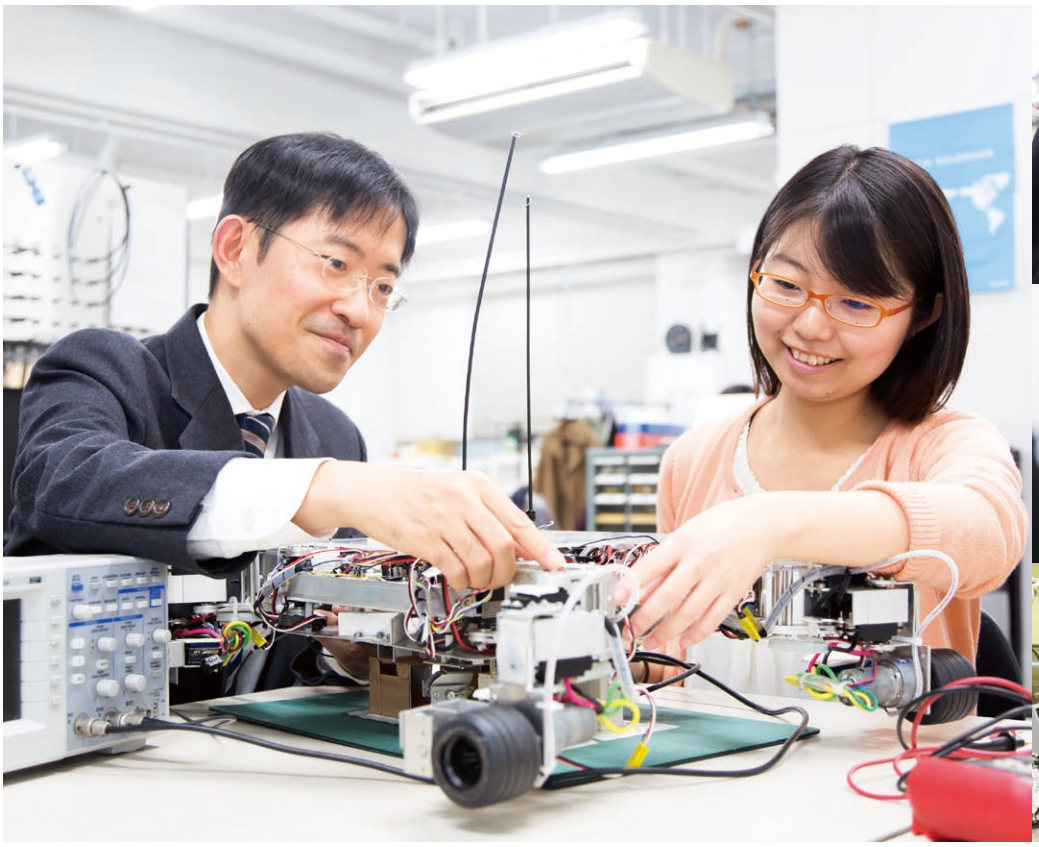
世田谷区 保坂展人 区長 ／ 本学 三木千壽 学長

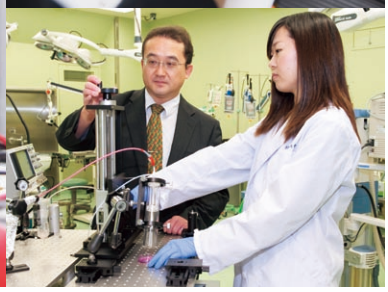
夢を探す！ 夢に出会う！ 夢を試す！
「二子玉川 夢キャンパス」誕生

平成27年6月、本学の新たな知の拠点「夢キャンパス」を「二子玉川ライズ・オフィス」8階に開設。気軽に利用できるフリースペース、ものつくりや実験に取り組める設備、科学体験などのワークショップを通じての地域交流など多目的に利用ができます。社会課題の解決や二子玉川の街づくりにも取り組んでいきます。

SETAGAYA CAMPUS

工学部





80年を超える歴史を持つ工学部は、開設以来今日に至るまで、日本の経済発展を支える優れたエンジニアを多数輩出してきました。現在では、ものつくりから、エネルギー、地球環境、医療、宇宙開発など時代のニーズを見据えた8学科体制になっています。各学科ともに、社会の要請に応えるべく理論と実践を重視しながら、高度な専門性と実践力を備える人材を育成しています。

専門性に富んだ研究室

3年次後期から自分の関心や将来の希望に合わせて研究室に所属し、実践的な科目を履修しながら、専門性と社会性に磨きをかけます。4年次では必修の卒業研究で研究室の教員に入念な個別指導を受けながら、社会に出た際に即戦力として活躍できる能力を育成します。

理論と実践

工学部の教育理念は「理論と実践」の習得です。低学年次から工学の基礎科目や理論を学ぶ科目において徹底して基礎力を養成します。その後、実験、実習、演習科目など少人数制の体験学習で理論を応用する力を育てながら、専門力と実践力を鍛えていきます。

TOPICS

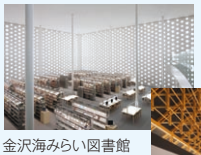
機械工学科 三原雄司教授の「革新的燃焼技術」などの研究が戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）に選定

SIPは、次世代の科学技術を創造するための国家プロジェクト。定められている10の重点課題のうち、三原教授が主導するのは、自動車産業の競争力強化につながる「革新的燃焼技術」と、クリーンエネルギーの実用を目指す「エネルギーキャリア」の2課題3研究テーマ。世界も注目する一大プロジェクトが推進中です。

次世代エンジン開発用研究エンジン

建築学科の堀場弘教授と福島加津也講師の設計が平成27年日本建築学会の主要な賞を受賞

堀場教授の設計による「金沢海みらい図書館」が平成27年度日本建築学会作品選奨を、福島講師の「木の構築 工学院大学弓道場・ボクシング場」が日本建築学会賞（作品）を、それぞれ受賞しました。堀場教授の設計は、欧米でも高い評価を獲得。福島講師の作品は、森林資源を有効活用、斬新で効率的な工法も大きく注目されています。



金沢海みらい図書館
（撮影／淺川 敏 氏）

工学院大学弓道場
（撮影／小川重雄 氏）

機械工学科

研究分野

■内燃機関工学 ■機械力学 ■材料力学 ■流体工学
■機械材料 ■表面加工

機械工学は、あらゆる産業における生産技術の基盤であり、また工学のすべての分野で欠くことのできない学問です。本学科では学生達が、既存技術の改良や応用並びに新しい技術の開発ができるように、幅広い基礎知識と応用知識の修得を目指しています。同時に数多く用意された体験学習カリキュラムにより「ものつくり」を体験することで、実践的知識、技術を併せ持つ創造力豊かな技術者の育成を目指しています。

研究室

◎内燃機関工学研究室
◎機械力学研究室
◎材料力学研究室
◎流体工学研究室
◎機械材料研究室
◎表面加工研究室

卒業後の進路

輸送用機器（自動車）、産業機械、精密機器関連メーカーでの研究・開発、機械（製品）設計・製造、機構・実装設計、制御技術設計、生産技術、生産管理、マネジメント、コンサルティング など

機械システム工学科

研究分野

■材料強度学 ■熱流体工学 ■機械制御工学
■計測電機制御工学 ■航空宇宙工学 ■ロボティクス

ロボットや宇宙機などに代表される高機能な先端機器では、使用環境などを考慮したユーザ志向のシステムを実現するために、機械要素の基本特性のみならず、各機械要素を有機的に結合するための電気的な計測・制御技術が必要となります。本学科では、このような先端機器を作り上げるために必要な幅広い専門技術を、講義と実験・実習を通して学ぶことにより、あらゆる分野で社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

研究室

◎強度設計システム研究室
◎熱流体システム研究室
◎高機能機械制御研究室
◎計測電機制御研究室
◎宇宙システム研究室
◎ロボティックライフサポート研究室

卒業後の進路

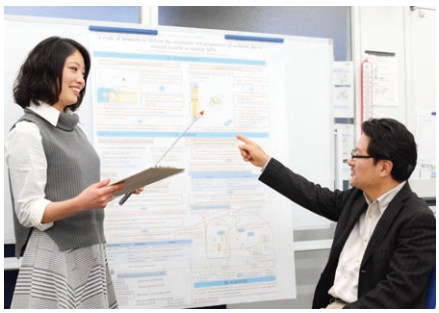
メカトロニクス設計、機械・機構・実装設計、システム設計・管理、工業自動化ライン設計、工作機械設計、プレス・金型設計、生産ライン設計、制御技術設計、生産技術・管理・プロセス、品質検査・管理・保証、マネジメント など

原子力安全工学科

研究分野

■原子力システム ■原子力安全工学 ■放射線応用工学
■放射線計測 ■原子力リスク評価 ■原子力耐震工学

エネルギーの安定な供給にしても、脱原発にしても、高度に教育された原子力技術者が必要です。原子力発電、放射線利用、廃止措置技術、リスクや耐震に関する安全評価など、より安全で豊かな未来社会を創造するために、新しい時代を担う技術者・技能者を育成します。半世紀に及ぶ本学の原子力研究・教育の実績を礎に、この伝統を尊重しつつ、革新の気概を持った、活力のある、世界に貢献できる技術者を育成します。



研究室

◎原子力システム研究室
◎原子力安全工学研究室
◎放射線応用工学研究室
◎放射線計測研究室
◎原子力リスク評価研究室
◎原子力耐震工学研究室

卒業後の進路

電力会社、プラントメーカー、民間研究機関、官公庁、自治体など。業務は原子力プラント設計、発電システム構築、原子力基礎研究、放射線利用、核燃料安全管理、保安施設管理・規制 など

医用工学科

研究分野

■臨床器械工学 ■知覚システム工学
■生体計測工学 ■生体認知工学

医学と工学を有機的に結びつけられるように両学問を学びます。そして、からだに関連した諸問題を「医学的な知識と工学的な手法で解決する」という発想とその解決能力を身につけます。医療用ロボットや画像診断・治療、高精度の健康モニタリングなど疾患をもつ人に向けた技術開発だけではなく、個人識別（ID）など一般の健康な人々にも貢献する技術を開発し、より健康的で快適な暮らしの実現に寄与します。また、工学部では珍しい手術室を完備し、再生医療にも取り組んでいます。

研究室

◎臨床器械工学研究室
◎知覚システム工学研究室
◎生体計測工学研究室
◎生体認知工学研究室

卒業後の進路

電子工学や機械工学、それぞれの専門知識を生かして電気系・機械系産業、あるいはソフトウェアの開発、臨床医療や介護福祉に関連した医療機器産業、研究教育機関、官公庁、大学院 など

電気電子工学科

研究分野

■量子・ナノデバイス工学 ■計算電子工学 ■システム制御工学
■電気機器工学 ■電力システム工学 ■電力応用工学

電気電子技術は、安定なエネルギー供給と快適な暮らしの実現に貢献してきました。これからも、持続可能で進化する社会を構築する切り札となる技術です。本学科は、限りある資源とエネルギーという制約を革新的な電気電子技術によって克服し、より幸福な社会を実現し、発展に貢献できる人材の輩出を目指し、実験に重点を置く実践的な教育の伝統を継承しつつ最新技術に関する教育を行っています。具体的には、先端デバイス分野での消費電力が低く高速な情報処理デバイスやパワーデバイス、電気機器分野での環境負荷を低減しつつ高性能なモータの開発、電力エネルギー分野での安定な電力ネットワーク構築などの現代の諸課題を解決する能力を培います。

研究室

◎ナノエレクトロニクス研究室
◎フォトニクス研究室
（有機フォトニクス、回路デザイン）
◎電気機器研究室
（モータドライブ、電磁システム、システム制御）
◎電力システム研究室
◎電気応用研究室
◎大電流エネルギー研究室

卒業後の進路

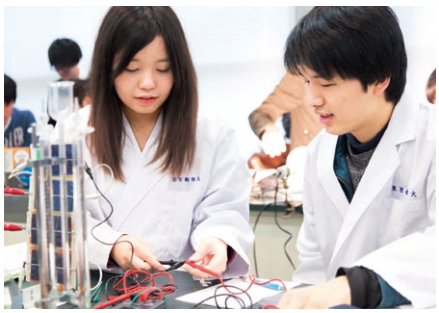
電気・電子機器開発・設計、半導体デバイス開発・設計、マルチメディア研究・開発、電力機器開発・設計、輸送機器開発・設計、電気設備設計・管理など

エネルギー化学科

研究分野

■エネルギー機能物質化学 ■高分子・バイオ化学 ■エネルギー変換デバイス
■機能設計・解析化学 ■水素エネルギーシステム

化学の知識と技術を使って、環境にやさしい化学エネルギーの発生から変換・貯蔵および利用について取り組んでいます。具体的には、最近注目されている燃料電池、太陽光を利用した光触媒や太陽電池、ナノテクノロジーやバイオテクノロジーを利用した機能性材料などについて研究をしており、これらの活動を通して課題を探求し解決する優れた能力や専門的な知識を備えた高度技術者および研究者の育成を目指します。



研究室

◎エネルギー機能物質化学研究室
（機能性薄膜、有機合成化学、無機材料化学）
◎高分子・バイオ化学研究室
（機能性高分子、機能性バイオ分子）
◎エネルギー変換デバイス研究室（固体化学）
◎機能設計・解析化学研究室
（無機物質変換、有機構造化学）
◎水素エネルギーシステム研究室
（燃料電池、化学システム工学）

卒業後の進路

化学メーカー、素材メーカー、電力・エネルギー関連、自動車産業、薬品関連、プラント関連、電子機器、教職（理科、技術、工業）など

建築学科

研究分野

■建築計画・設計 ■建築構造
■建築環境・設備 ■建築材料・構法・生産

建築は、人々の生活に関わる幅広い活動の舞台となる空間・構造・環境、そしてプラスαをかたち造るものです。同じ条件に対して、答えは1つではありません。したがって、建築・都市という領域において、人間を取り巻く自然環境と社会環境を歴史的視座のもとで幅広く理解し、科学・技術を基盤とした工学的基礎知識を修得し、さらにプレゼンテーション力やコミュニケーション力をしっかりと身につけることが大切です。本学科は、以上の観点から、設計を中心とする演習科目を基幹科目として位置づけたカリキュラムのもとで、建築学に関わる総合的な基礎能力、応用能力を培い、社会に貢献できる建築家及び建築技術者を養成することを目指しています。

研究室

[建築計画]
◎天野研究室 ◎勝又研究室
[建築設計]
◎堀場研究室 ◎手塚研究室 ◎福島研究室
[建築構造学]
◎西村研究室 ◎大村研究室
[建築環境設備学]
◎近藤研究室 ◎岩下研究室 ◎小林研究室
[建築材料工法]
◎大橋研究室 ◎小見研究室 ◎佐藤研究室

卒業後の進路

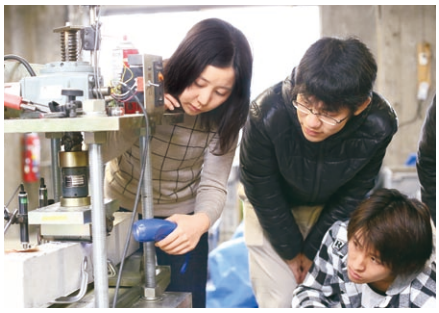
建設業、建築設計事務所、建築材料メーカー、一般企業、民間研究・教育機関・団体、官公庁・自治体 など

都市工学科

研究分野

■計画マネジメント ■水圏環境 ■地盤環境 ■構造安全

人間―自然環境―社会システムの3者間の健全かつ持続的な共生の構築に関する幅広い理解を持ち、道路、鉄道、橋梁、上下水道などの設計、施工、維持、都市や交通の計画、都市環境や自然環境の調査、改善、創造を進める技術者を養成することを目的としています。都市環境の創造と災害に強い街づくりを担う使命感豊かなエンジニアとして世界にはばたいていく人材の育成に努めています。



研究室

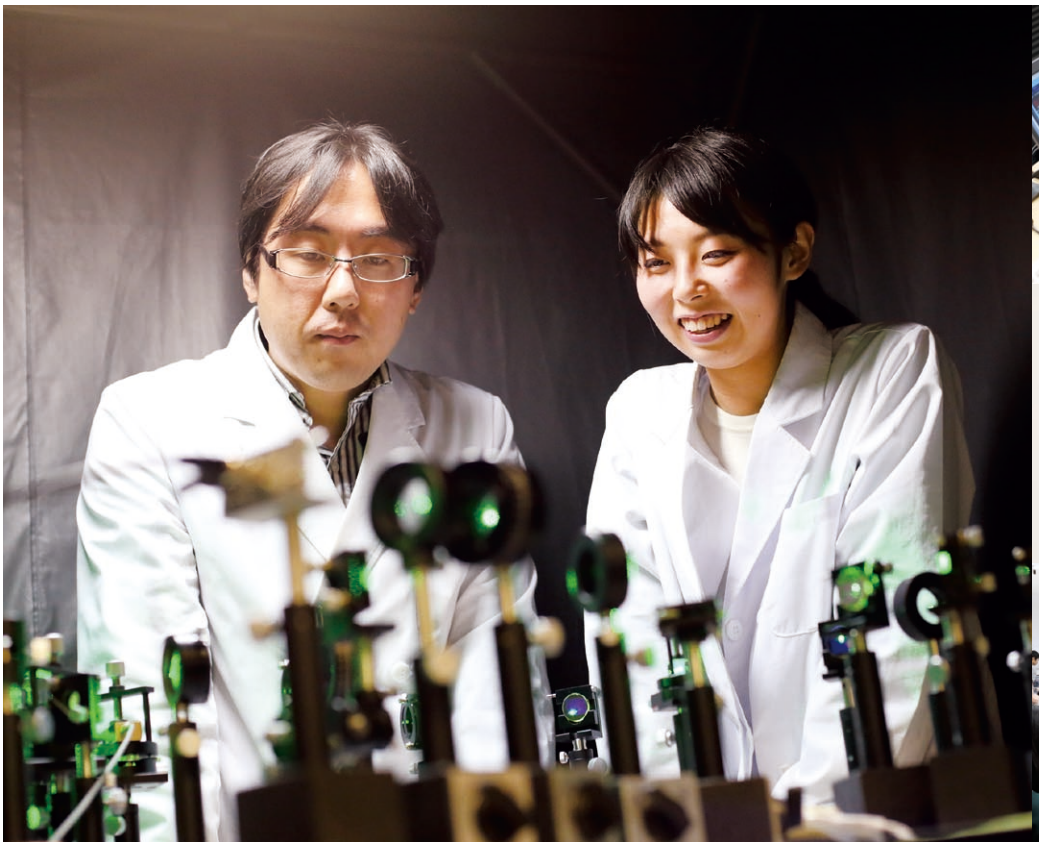
◎計画マネジメント研究室
◎水圏環境研究室
◎地盤環境研究室
◎構造安全研究室

卒業後の進路

官公庁・自治体、電力会社・鉄道会社、ゼネコン、橋梁・道路などの専門建設会社、コンサルタント など

SETAGAYA CAMPUS

知識工学部



高度な科学技術を総合的に駆使できる人材育成を目指し、最先端かつ未来志向の情報工学関連技術を学び、それらをビジネスや社会に展開するための実践力を身につけて、現代社会の幅広い課題にチャレンジできるエキスパートを育てます。本学における工学の伝統を受け継ぎながら、時代に即した新しいタイプの工学教育と研究を実践していきます。

専門性に富んだ研究室

3年次後期から自分の関心や将来の希望に合わせて研究室に所属。実践的な科目を履修しながら、専門性と社会性に磨きをかけます。4年次では必修の卒業研究に専念。研究室の教員に入念な個別指導を受けながら、社会に出て息長く活躍できる能力を育成します。

充実した「キャリア開発」科目の設置
―早期から就職への意識を高める―

知識工学部では、社会に出るための準備や練習のため、グループディスカッションを中心にキャリアデザインを学ぶ基礎科目や、さまざまな業界や職種について研究する特別講義を設けています。大学生活の早い時期から、主体的に将来設計を考える。それが自己実現の王道です。

TOPICS

情報通信工学科の佐和橋衛教授が携帯電話の基盤技術で平成27年度の全国発明表彰特許庁長官賞を受賞

受賞理由は、NTTドコモ在職中に、樋口健一氏（現:東京理科大学准教授）と共同で生み出した「LTEにおける高速セル探索技術の発明」。4G携帯電話システムLTEの基盤技術で、ユーザー端末が基地局を特定、通信開始までの時間を短縮する技術です。佐和橋教授は、平成22年の同賞内閣総理大臣発明賞も受賞しています。

知識工学部の講義を疑似体験できる「高校生のためのオープンセミナー」を実施

7月19日と8月29日の両日、「オープンキャンパス2015」の開催に合わせ、「高校生のためのオープンセミナー」を実施しました。午前と午後の2講義を受講して、レポートを提出した高校生には、平成28年度AO型入試の活動記録に利用できる「受講証明書」を田口亮 知識工学部長より授与しました。

情報科学科

研究分野

■計算機アーキテクチャ ■計算機ソフトウェア ■知識情報処理
■画像工学 ■計算理論 ■制御システム

コンピュータと情報処理に関する基礎知識およびユビキタスコンピューティングを実現する専門技術を習得し、IT社会を支えるシステム開発能力を備えた創造性豊かな技術者となることを目指します。そのため本学科では、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、理論的基礎である情報数理、応用としての制御技術やメディア技術を学びます。また、充実した実験と演習により、これらを体験的に学ぶことで、実践力のある技術者を育てます。

研究室

◎コンピュータシステム研究室
◎計算機ソフトウェア研究室
◎知識情報処理研究室
◎画像工学研究室
◎視覚メディア研究室
◎計算理論研究室
◎自動制御研究室

卒業後の進路

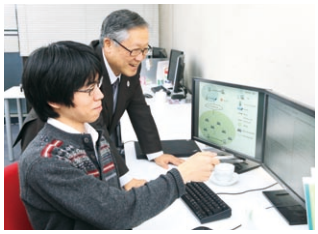
コンピュータ、半導体、情報機器、ソフトウェア、情報システム関連、マルチメディア、コンピュータグラフィックス、画像、放送、音響関連、ロボット、システム制御、電子機器、情報サービス、通信関連 など

情報通信工学科

研究分野

■通信システム ■コンピュータネットワーク
■集積化システム ■無線システム

どのような情報でも通信できるユビキタス通信時代に備え、通信システムの設備や機器、それを支えるシステムLSIなどハードウェアとしての技術ばかりでなく、それらが相互に結びついて構成されるネットワークシステム技術やコンピュータネットワーク技術、さらに高信頼化技術などの運用·管理技術などソフト面を含めることにより、統合的にシステムを理解できる通信技術者の育成が教育目標です。産業界で経験豊富な教授陣が、基礎から実践技術まで系統的に教育します。



研究室

◎通信システム研究室
◎コンピュータネットワーク研究室
◎集積化システム研究室
◎無線システム研究室

卒業後の進路

通信サービス、通信システム、情報処理サービス、情報処理システム、通信セキュリティ、通信·伝送機器、情報処理機器、電子機器、精密機器、半導体、センサ、カーエレクトロニクス、鉄道、放送 など

経営システム工学科

研究分野

■経営管理システム ■市場モデリング
■人間情報システム ■生産システム

「ヒト・モノ・カネ」そして「情報」を効果的に配置し、“経営”の場面において戦略的に組織を推し進める力、それが“マネジメント力”です。本学科は、“経営”に特化した情報の分析·活用技術の教育やコンピュータ教育によって、“情報”を駆使する数理的能力を育成し、さらに、技術分野を横断した総合的な知識と技術の教育によって、「経営分析技術」「管理技術」「数学的分析力」「情報処理能力」などの能力や知識を兼ね備えた次世代の“総合マネジメント技術者”を育成します。

研究室

◎経営管理システム研究室
◎市場モデリング研究室
◎人間情報システム研究室
◎生産システム研究室

卒業後の進路

[金融·コンサルティング系]銀行、保険、証券、総合研究所(シンクタンク)、経営コンサルタント、人材派遣など
[品質管理·生産管理·物流管理系]自動車、エンジニアリング、運輸、交通機関、電力·ガス、機械、建設、電気電子、製薬、飲食、食品ほか製造業 **[情報·サービス産業系]**マルチメディア、情報処理、コンピュータ、システム開発、ソフトウェア関連、マーケティング、流通など

自然科学科

研究分野

■地球の歴史 ■生物の進化 ■生命の化学 ■分子の科学
■理論物理学 ■数学

自然科学の総合的知識と、調査·分析·表現力を身に付け、幅広い分野で活躍できる理系職業人を育成します。とくに、科学的な事柄を、自分で調査し、考察できるようになるため、分析化学や野外調査の技能修得を重視します。また、教員や学芸員、出版人、放送人に求められる表現力を実務経験豊富な教授陣が指導します。

研究室

◎ソフトマテリアル研究室
◎化学研究室
◎生命科学研究室
◎地球科学研究室
◎宇宙線研究室
◎基礎物理学研究室
◎応用数学研究室
◎微分幾何学研究室
◎位相幾何学研究室

卒業後の進路

教員、学芸員、公務員、出版、放送、広告、化学、食品、製薬、化粧品、防災、資源探査 など

SETAGAYA CAMPUS

世田谷キャンパス

工 学 部　知識工学部　大学院工学研究科

緑豊かで閑静な高級住宅街に囲まれた、都内屈指の文化的環境にある世田谷キャンパス。
より専門性の高い教育・研究を展開すべく、大規模リニューアルが進行中。

1号館

学習・学生生活をサポートする拠点として重要な役割を担う1号館。平成25年12月に竣工。地下1階、地上4階建ての建物は、地下1階に教室、1階には学生支援部・メインエントランス、2～3階は大中小の教室と研究室、4階には事務室とテラスがあるラウンジ「オーク」を備えた複合施設となっています。また、自然換気窓を取り入れた通風システムや外部ブラインド設置により空調エネルギー負荷を軽減するとともに、氷蓄熱利用の空調施設に加え、太陽光発電の装備や屋上・壁面緑化などを採用した先進の環境配慮型設備となっています。

SAKURA CENTER #14

「SAKURA CENTER #14」は、アリーナ（体育館）のほか、学生食堂、カフェテリア、トレーニングルーム、武道場などさまざまな機能を併せ持つ複合施設。収容人員約2,700名のアリーナは、体育の授業や課外活動で用いられるほか、入学式や学位授与式など大規模なセレモニーの会場にもなります。学生食堂では、全国的にも珍しい電磁調理キッチンシステムを導入。また、近未来的なインテリアと、ふんだんに外光を採り入れたデザインが評判のカフェテリアでは、その場で焼き上げる自家製パンが人気です。学生や教職員だけでなく、地域住民の憩いの場ともなっています。

図書館

創立75周年記念事業の一環として、「SAKURA CENTER #14」とともに建てられました。多様なIT設備とオンラインサービスが利用できる最先端の図書館では、工学系の専門図書を中心とした約28万冊の図書、約2,100タイトルの学術雑誌など書籍だけではなく、パソコンをネットワークへ接続して豊富な情報を入手することができます。また、地下1階には、学生が自由に集まって知識やアイデアを掘り下げ、広げるための知のハブとなるラーニング・コモンズを備えています。空中庭園を臨む閲覧席、木質感あふれる雰囲気など落ち着いた学習環境も整っています。

２号館

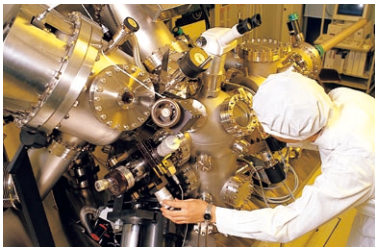
平成21年に竣工。医学や生理学を本格的に学びながら、工学的スキルを高めていけるよう、4次元超音波診断機を備える「臨床実験室」や、病院レベルの器材を持つ「手術室」など、医学に特化した最先端の体験・実習型設備を整えています。そのほか医用工学科の研究室や、最大225名収容可能な一般教室も備えています。

４号館

世田谷キャンパスリニューアル計画の先陣を切って、平成18年に竣工。地上4階建て校舎の1～2階には、オープンな環境で実践的に製図やプレゼンテーションが学べるよう広大なスペースが広がっています。3～4階には研究室やミーティングスペースを備えた、建築学科ならではの洗練された建物になっています。

機器分析室

新素材開発などの先端的研究に欠かせない高度な分析装置が揃っている研究施設です。また、分析技術者を養成する施設にもなっています。超高分解能の分析電子顕微鏡をはじめ、高性能の走査電子顕微鏡、微少部走査X線自動分析、トリプルラマン分光分析、フーリエ変換赤外分光分析、単色X線光電子分光分析、走査プローブ顕微鏡、各種X線回折装置、蛍光X線分析装置など11種類の高性能な分析装置が揃っています。



半導体特別研究室

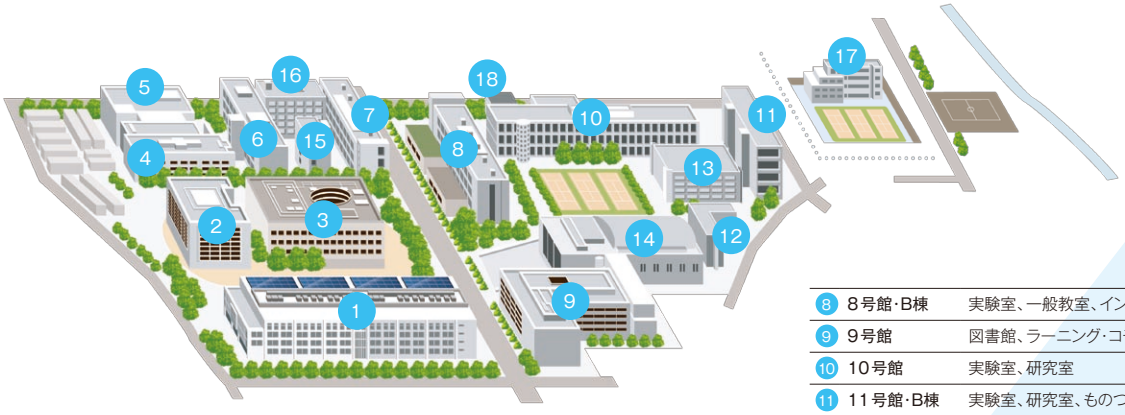
超高性能X線光電子分光装置「ESCA-300」が設置されており、半導体集積回路や太陽電池の開発に不可欠な各種絶縁体薄膜と基板結晶との界面の形成とその物性評価に関する研究を行っています。特に、パワーデバイス用半導体材料として注目を集めているSiCやGaNと絶縁膜との界面、極薄シリコン酸化・窒化膜や高誘電率ゲート絶縁膜の組成と化学結合状態などに関する研究は、電子工学分野の最先端の研究として、学会や産業界から大きな期待が寄せられています。

情報基盤センター SC

「情報基礎教育」から「成果のまとめ」に至る一連の情報教育をサポートしています。自由にPCを利用できる環境が整備されており、ANSYS、MATLAB、AutoCADなど工学分野で利用する専門性の高いソフトウェアを利用できます。また、センター開館時と同じパソコン環境がリモートアクセスにより利用できる仮想デスクトップシステムなどを整備しています。さらに情報処理の技術向上を目的とし、表計算(応用)、数式処理、画像処理等の講習会を実施しています。

ものつくり支援センター

機械系4学科の体験学習である機械工作実習を担当しているほか、すべての学部の各研究室で使用する装置の試作加工や学生団体に対しての技術的アドバイス、無償の加工依頼も受け付けています。旋盤、フライス盤、ボール盤などをはじめとした加工設備で、金属材料やアクリル板などのプラスチック類の加工が可能です。年数回これら工作機械の加工法に関する講習会も実施しており、ものつくりの技術力向上に貢献しています。



1	1号館	事務室、研究室、一般教室、PC対応教室、学生ラウンジ、ラウンジ「オーク」
2	2号館	機器分析室、一般教室、研究室、実験室
3	3号館	[五島記念館] 実験室、研究室、一般教室、五島メモリアルホール、東京都市大学歴史展示コーナー
4	4号館	研究室、製図室
5	5号館	実験室、研究室、小講堂
6	6号館	実験室、研究室、製図室、電子化教室、一般教室
7	7号館	一般教室
8	8号館・B棟	実験室、一般教室、インターナショナルラウンジ
9	9号館	図書館、ラーニング・コモンズ
10	10号館	実験室、研究室
11	11号館・B棟	実験室、研究室、ものつくり支援センター
12	12号館・B棟	実験室、研究室
13	13号館	実験室、研究室、多目的演習室
14	14号館	[SAKURA CENTER #14(体育館・食堂棟)]アリーナ、武道場、食堂・カフェテラス、学生クラブ本部室、ブックス&ステーショナリー、ホール、ロッカー、シャワー室、集会室、講義室
15	15号館	情報基盤センターSC
16	16号館	LL教室、LL AMM教室、実験室、研究室
17	18号館	体育準備室、学生のクラブ部室、会議室、ミーティングルーム、シャワールーム
18	半導体特別研究室	

YOKOHAMA CAMPUS

環境学部

環境創生学科の田中章教授が、都市域における分散型生物多様性バンクとして開発した、都市化した人工基盤に生物多様性を再導入する仕組み"ビオトープ・パッケージ"。エコプロダクツ大賞、東急環境賞を受賞。

「環境の世紀」と呼ばれる21世紀、地球温暖化や生物多様性保全に代表される地球規模の問題から、人々の生活に直接関わるエネルギーの確保や水質汚濁の解消まで、解決すべき課題は多岐にわたっています。経済活動に伴い変化する環境や生態系に関する知識と、問題解決に必要な実行力を持ち、文系・理系の枠を越えた実践的な教育・研究を通じて、環境問題の解決に貢献できる人材の育成に努めます。

環境問題に特化した2学科を設置

自然環境を創る「環境創生学科」。持続可能社会を作る「環境マネジメント学科」。2つの特色ある学科を設置し、環境問題を多角的に捉え、より良い環境を作り出すためのさまざまな方法を学びます。

専門学習の指針となる4つの「分野」

「生態環境」「都市環境」「環境経営」「環境政策」の4分野を設置。環境や生態系のメカニズムから、都市が抱える諸問題、企業における環境経営への取り組みや、自治体の環境政策のあり方まで、専門性の高い学習を行います。

特色あるグローバル・地域連携教育プログラム

国内外におけるフィールドワークプログラムを多数用意。キャンパスとその周辺における「地域緑のまちづくり」や、中国、ネパールなどでの「国際教育研究プロジェクト」を通じ、環境問題を体験的に学習します。

TOPICS

環境創生学科と大和ハウスグループである大和リースが植物による土壌浄化能力の共同研究に着手

土壌汚染などのために未利用となった土地（ブラウンフィールド）対策として、有害物質の吸収・蓄積・分解など多様な能力を持つ植物を応用する「ファイトレメディエーション」の共同研究をスタート。大和ハウス工業（株）、JFEエンジニアリング（株）など8社で構成する研究会も発足し、画期的な環境技術の確立に挑戦しています。

環境学部の教員2名がネパール地震を現地調査 7月8日「ネパール地震報告会」を横浜キャンパスで実施

平成27年4月に発生したネパール地震。約50万棟の建物に被害が及び、多くの死傷者を出した大地震発生後、環境創生学科 リジャルH.B.准教授と、環境マネジメント学科 岡田啓准教授は現地に入って調査を敢行しました。報告会では、被害状況と意識調査、支援活動、現地トリブバン大学との話し合いの模様などが紹介されました。

環境創生学科

自然環境、都市環境、地球環境に関する広範な知識と具体的な技術を実社会で応用できる人材を育成します。顕在化する環境問題を科学的に理解し、問題解決のための専門力を身につけます。持続的で循環する自然および都市生態系を実現するために、自然の調査や評価の手法、生態環境の保護·復元·修復·維持·ワイズユースのための政策や計画のための技術、GISなどの環境情報の処理と共有化の技術、環境分析やモニタリング技法、自然のシステムを人工環境に再導入し快適な都市環境を創出する技術などを修得し、実社会で即戦力となり得る「環境創生力」を養います 。

環境フィールド·計測演習

都市河川の水環境·生態調査

主な専門科目

生態環境分野

- 自然環境調査法
- 生態環境保全学
- 復元生態学
- ランドスケープ論
- 環境緑地学
- エコロジカルプランニング
- 環境分析演習
- 生態系アセスメント

都市環境分野

- 都市·居住環境論
- 住環境システム
- 環境都市再生論
- 都市インフラストラクチャー
- 建築気候学
- 交通環境
- 住環境と人間行動

研究室

[生態環境]

◎吉﨑研究室(緑地環境システム)
◎田中研究室(ランドスケープ·エコシステムズ)
◎成研究室(環境化学)
◎北村研究室(保全生態学)
◎横田研究室(都市生態計画)

[都市環境]

◎宿谷研究室(建築環境システム)
◎史研究室(スマート·エコシティ)
◎室田研究室(居住環境·コミュニティ再生)
◎リジャル研究室(建築·都市環境科学)
◎大西研究室(社会環境システム)

卒業後の進路

国·地方公務員、国際協力政府機関、大学·環境系研究所、環境·都市計画·建設·建築·緑化·造園コンサルタント企業や同シンクタンク企業、国際環境NGO、多方面の一般企業の環境部門 など

環境マネジメント学科

持続可能社会に関する適切な知識とビジョンを身につけ、環境調和型の企業活動や消費行動を促進する具体的な政策、企業の環境部門と連携して環境に調和した製品や技術開発に関する企画·立案を実践的に学びます。企業、自治体、消費者の特徴的な課題を発見して分析し、それらの解決に向けて組織をマネジメントできる人材を育成するため、国内外の企業や自治体との交流を推進し、国際的な視野のもとで環境問題の解決に向け積極的に活動する「マネジメント力」を養います。

「農村の宝」触れ合い、学ぶ枝廣研究室学生
(熊本県山都町水増集落)

IPCCストッカー議長と意見交換する
環境マネジメント学科学生

主な専門科目

環境経営分野

- 循環型生産システム
- 企業経営とサステナビリティ
- 環境ロジスティクス
- 環境会計
- 環境マーケティング
- 環境改善のライフスタイル
- ライフサイクルアセスメント
- 環境志向型経営分析
- 環境監査　■エコデザイン

環境政策分野

- 公共経済学
- 開発協力と環境
- 環境経済学
- 環境政策論
- 環境社会学　■環境法
- 国際政治経済論
- グローバルガバナンス
- 国際経済と環境

研究室

[環境経営]

◎伊坪研究室(ライフサイクル環境評価)
◎郭研究室(持続可能な循環型生産システム)
◎枝廣研究室(環境コミュニケーション)

[環境政策]

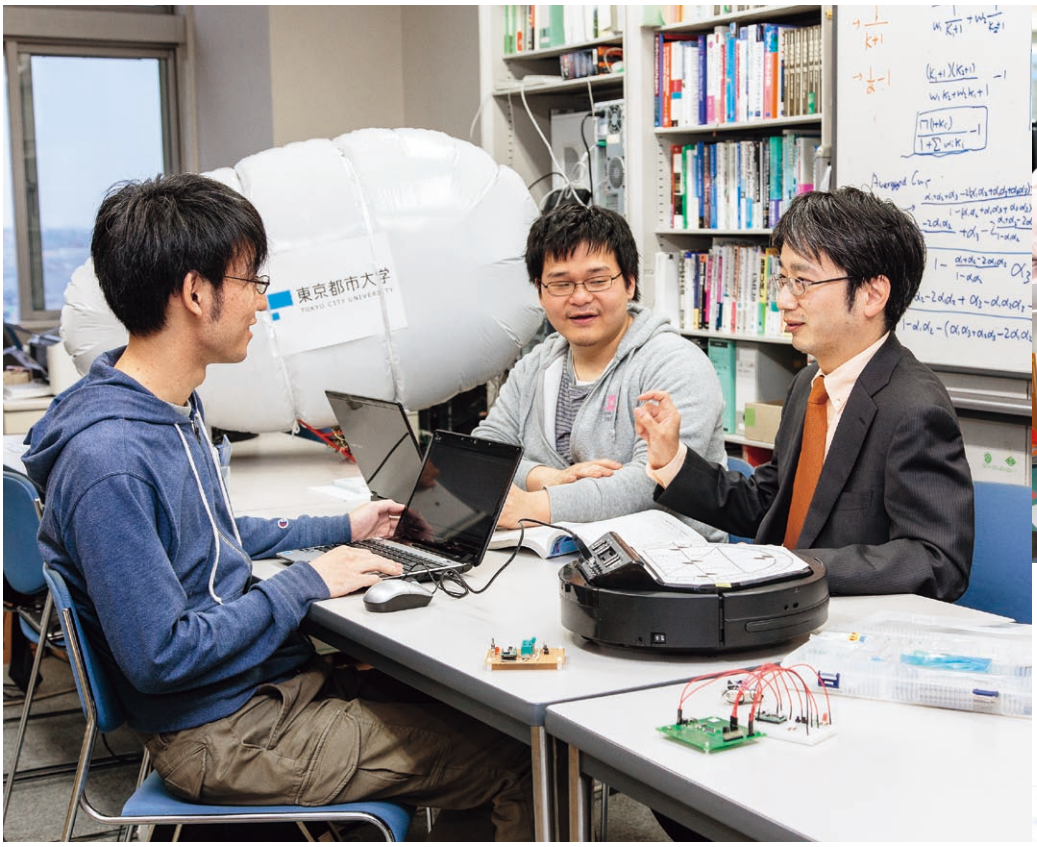
◎岡田研究室(環境·エネルギー政策)
◎小野研究室(世界政治)
◎古川研究室(環境法政策)
◎佐藤[真]研究室(環境教育と国際協力)
◎大塚研究室(環境思想と農業食料問題)

卒業後の進路

一般企業の環境部門·マーケティング部門·情報システム開発部門、公務員、環境コンサルタント、シンクタンク、NPO·NGO、国際環境協力関連機関 など

YOKOHAMA CAMPUS

メディア情報学部



情報分野の教育·研究の一層の充実をはかるため、平成25年に「メディア情報学部」が誕生。飛躍的に進展する情報技術と人間·社会との共生を目指し、文系·理系の第一線級研究者や、企業での実績を持つ教員スタッフが、実社会に貢献する教育·研究を展開しています。充実した情報機器·ネットワーク環境のキャンパスで、情報コミュニケーション技術(ICT)に関わる専門職として、社会に深くコミットし貢献できる人材を育成します。

サイバーキャンパスをフル活用

国内でも有数の最新情報設備のもとで、プログラミングやWebデザインなどの豊富な演習授業を受けることができます。文系・理系の充実したスタッフが結集して実社会に貢献する教育を行い、学生自身の希望や問題意識に沿って実践的に学ぶことができます。

学生主体のものづくりとデザイン

情報システムを学生自らデザインして運用したり、アイデアをもとに作品の制作に取り組んだり、調査成果や提案を広く社会に向けて情報発信するなど、実際に手を動かし、汗をかくものづくりを行い、発想力や実現力、発信力を育てます。

専門性を高める研究室

3年次から2年間、全員が各自の学びたい分野の研究室に所属。テーマの見つけ方や研究手法、具体的な研究の進め方まで、担当教員が一人ひとりに直接指導を行います。4年次には卒業研究を完成させ、全員が大学生活における専門研究の成果を発表します。

TOPICS

「都市大発の科学コミュニケーションプログラムを創る」キックオフシンポジウムを開催

科学コミュニケーションとは、サイエンスについて科学者と科学者でない人とが対話をすること。メディア情報学部では、「東京都市大学アクションプラン2030」の一環として、「都市大発の科学コミュニケーションプログラムの開発」に着手、7月1日、横浜キャンパスでキックオフシンポジウムを開催しました。今後の展開にご注目ください。

「横浜キャンパスでの移動を円滑に!」をテーマに「第1回 高校生デザイネージコンテスト」を実施

7月18日、19日の両日、「第1回高校生デザイネージコンテスト」を開催。「ピクトグラム部門」で学内の案内·注意·禁止に関する3種の標識を、「プログラミング部門」では人の動きで表示が変化する館内案内用電子看板システムの制作をしてもらいました。両部門合計16名の高校生が参加、盛況のうちにコンテストは終了しました。

社会メディア学科

本学科では、ICT時代をリードするメディア専門職として活躍できる人材を育成します。そのために3つの力、膨大な情報を収集·分析し、問題を発見する「リサーチ力」、問題解決のために新たな情報ツールを制作·提案する「デザイン力」、個人と地域、地域と企業、市民と専門家、多様なコミュニティや組織をつなぎ、問題解決へと導く「ネットワーク力」の修得を目指します。

デザインシンキング

主な専門科目

コミュニティデザイン分野

- 都市·コミュニティ論
- デザインシンキング
- メディアと表現
- メディア文化論
- 参加型デザイン論
- 社会ネットワーク論
- 社会情報デザイン
- メディア·プロデュース論
- 街づくり論
- 持続可能社会とコミュニティ
- NPOとソーシャルビジネス
- 起業論

人間コミュニケーション分野

- コミュニケーションの心理
- 異文化間コミュニケーション
- リスクコミュニケーション
- 産業組織心理学
- 自己理解とカウンセリング
- ジャーナリズム論
- ルポルタージュ論
- マスメディアと人間行動
- 現代国際情勢
- メディアと政治
- メディアと知的財産権
- 電子商取引論

研究室

◎岡部研究室（フィールドワーク）
◎川村研究室（持続可能な社会）
◎小池研究室（情報デザイン）
◎清水研究室（視覚情報デザイン）
◎李研究室（インターネットとマス·メディア）
◎中村研究室（参加デザイン）
◎広田研究室（行動的意思決定）
◎矢吹研究室（生涯発達心理学）
◎山﨑研究室（文化とコミュニケーション）
◎関研究室（デザイン生態学）

卒業後の進路

メディア·情報通信業（新聞社、出版社、テレビ局、番組制作会社）、情報サービス業（IT系·メディア系企業）、市場調査会社、教育産業、製造業 など

情報システム学科

本学科は、IT業界やICT業界で長きにわたってマネージャーとして活躍できるプロフェッショナルを育成します。このために、プログラミングやメディア処理技術、Web制作技術とともに、ICTアセスメントや情報セキュリティ、情報管理、情報数学など、高度な情報システムを実現するために必要な技術力、思考力を鍛えます。

LAN環境演習

主な専門科目

システムデザイン分野

- ディジタル信号処理
- ディジタル通信
- オペレーティングシステム
- サーバシステム構築
- 音響心理学
- マルチメディア情報処理
- マルチメディア記述法
- コンピュータシミュレーション
- 可視化技法
- サーバ管理演習

ICTアセスメント分野

- ICTアセスメント概論
- システムインテグレーション
- 企業と情報管理
- ビジネスモデリング
- 電子商取引論
- 情報セキュリティ
- 組織とマネジメント
- 産業組織心理学
- 情報政策論
- 起業論
- オペレーションズリサーチ

研究室

◎岩野研究室（音メディア処理）
◎梅原研究室（経営情報システム）
◎大谷研究室（人工知能）
◎小倉研究室（次世代信号処理とソフトウェア）
◎諏訪研究室（情報通信）
◎関研究室（情報セキュリティ）
◎藤井研究室（メディアネットワーキング）
◎宮地研究室（3次元可視化）
◎八木研究室（知能メディア）
◎横井研究室（情報環境技術）

卒業後の進路

システムエンジニア、システムインテグレーション部門、技術営業部門、メディア処理技術者、IT企業等のユーザビリティエンジニアリング部門 など

YOKOHAMA CAMPUS

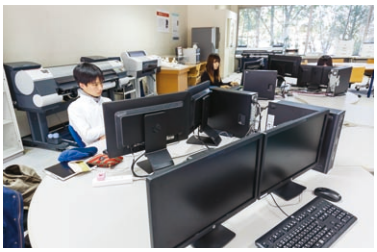
横浜キャンパス

環境学部　メディア情報学部　大学院環境情報学研究科（環境情報学専攻）

日本の大学で初めて〈環境ISO14001〉の認証を取得。環境への配慮や工夫を凝らした「エコキャンパス」、情報ネットワークに特化した「サイバーキャンパス」の側面も備えています。

図書館・情報基盤センター YC

情報ネットワークやメディア、コンピュータに関する研究・教育の拠点となっています。専門的な設備を使ってマルチメディアコンテンツの作成ができるメディアホール、バーチャルスタジオや編集室を完備する映像メディアルーム、マルチメディア教卓を有するプレゼンテーションラボなど、先進のシステムが用意されています。



メディアホール

パソコンをはじめ、大型プリンターやマルチメディア作品を制作できる専門的な機材が用意されています。また、フリースペースとしても利用され、学生達の貴重な"発想の場"となっています。

映像メディアルーム

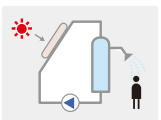
2号館2階にある映像に特化した施設です。4K映像や3D映像が撮影できるバーチャルスタジオを備え、本格的な映像編集も可能です。遠隔講義にも用いられ、映像配信の要でもあります。

31E 環境実験・演習室

環境分野のさまざまな実験や実習ができる演習室。先進の機器類に加え、データを解析するためのパソコン類も充実しており、計測から分析、評価までをまとめて行えるのがこの教室の魅力です。

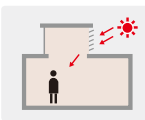
自然との調和を考慮した、横浜エコロジカルキャンパス

横浜キャンパスにある建物には、自然環境にある様々なポテンシャルを活かせるような工夫が施されています。また、キャンパスの構成員で、エネルギー使用量の削減やゴミの減量・分別が無理なく行えるような仕組みをつくって日頃の教育・研究活動をスムーズに営めるようにしています。キャンパス内にある保全林を活かす方法や建物の省エネルギー性に関する研究活動なども行っており、キャンパスが環境に関する活きた教材になっています。横浜キャンパスが設立された直後の平成10年10月、日本の大学として初めて、〈環境ISO14001〉の認証を受け、平成22年には4度目の更新審査を受け活動を継続的に展開しています。平成15年10月には環境改善活動が高く評価され、地球環境大賞優秀環境大学賞を、国内の大学として初めて受賞しました。



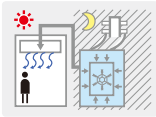
ソーラーシステム

体育館の屋根にはソーラーパネルを設置。太陽エネルギーを利用して水を温め、体育館の温水シャワーなどに活用しています。



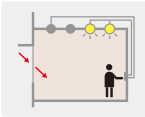
ハイサイド・ライト

建物内部に自然環境を取り入れ、採光や通気を良くすることで電灯照明や空調の無駄を減らし、明るく心地よい空間を創出しています。



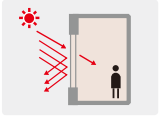
氷畜熱式ヒートポンプエアコン

このキャンパスでは深夜の電力を利用して蓄熱槽に氷を蓄え、その冷たさを冷房運転、冬季はお湯を蓄え、その暖かさを暖房運転に役立てています。



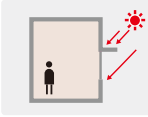
照明計画の工夫

建物内の照明は普通に使っても無駄が多くなります。そこで、自然光を採り入れ、照明スイッチを系統化し、エネルギーを節約しています。



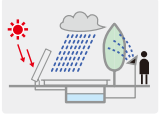
ペアガラス／Low-Eガラス

外気と温度差が大きい南と北の窓に、二重構造のペアガラスや特殊コーティングした断熱効果の高いLow-Eガラスを採用。空調効果を高めています。



庇（ひさし）／袖壁

直射日光の遮蔽効果は窓の外側を工夫することで大幅に高められます。各建物に庇や袖壁を設置し、夏季の冷房使用量を低く抑えています。



ビオトープ

本学部と企業が共同開発したクールパレットシステムを用いたビオトープを設置し（エネルギーに太陽光を用いるなど）、ヒートアイランド対策と共に、実践的な学習の場となっています。

雨水利用

雨水を地下の雨水槽に集め、樹木への散水に利用。夏季には体育館の屋根にポンプアップし、散水で温度を下げる有効利用を図っています。

FEISホール

270名を収容できるシアター式のホールです。パソコンやBlu-ray、ビデオなどさまざまなメディアから170インチの巨大スクリーンに資料を提供することが可能です。音響システムは7.1chで、音楽ホールなみの臨場感を再現し、講義や講演のほか、演劇や演奏などにも利用されています。

31A 教室

200インチの大スクリーンや、遠隔授業に対応した高感度カメラ、マルチメディアコンセントなどを備える、通称「300人教室」。招待講演や国際シンポジウムなどにも利用される多目的コミュニケーションスペースです。

ミニプレラボ

大学院や卒業研究・事例研究などで、パソコンやスマートフォンの画面を即座に切替えながら活発な議論を行う際の快適な環境を提供します。持参した情報機器の画面・音声は大画面ディスプレイに表示することができます。また、備え付けの大画面スクリーンと高音質の音響で没入間のある映像鑑賞も可能です。

31F 演習室

授業、ゼミ、ワークショップなど多用途に使える施設です。教室のキーワードは、“プレイフルラーニング（楽しみに満ちた学びの実践）”。可動式のテーブルは授業の形態に応じて瞬時にスタイルを変えることができます。

評価演習室

AV機器やパソコンから被験者へ映像や音声を評価刺激として提供し、これをリアルタイムで監視しながらビデオカメラで記録します。サーモグラフィやポリグラフィを使って、カメラでは捕捉できない被験者の反応を計測することが可能です。

1号館 本館

1階に学生支援部・医務室、2階にキャンパス総務センター・学部長室・学生相談室・就職面談室などがあり、学生生活をサポートするための、中心的施設となっています。

食堂棟・学生ホール

1階に学生食堂、2階に学生ホールとキャンパスショップ（売店）が設けられています。各階とも、自然光を採り入れた明るく清潔な設計で食事や学習、コミュニケーションの場となっています。また、情報コンセントと無線LANが設置され、ノートパソコンを持ち込んでインターネット利用をすることもできます。

コンビニ「Yショップ」

2階学生ホールと隣接した場所にあるコンビニ「ヤマザキYショップ」。食料品や日用雑貨など商品が充実。弁当やパンは1階の厨房で作られたものが販売され、から揚げパンが人気です。

体育館・部室棟

体育館（アリーナ）やトレーニングルーム、シャワー室のほか、学生サークル用の部室棟、体育教員室、ミキサー室が備えられ、体育の授業やサークル活動など幅広く利用されています。

1	1号館	本館	
2	2号館	図書館・情報基盤センターYC	
3	3号館	講義・研究棟	
4	4号館	食堂棟・学生ホール	
5	5号館	体育館、部室棟	
6	フィールド演習室		
7	保全緑地、公開遊歩道		
8	ビオトープ		

JAB EMS Accreditation CM021
ISO 14001 JACO EC98J1092
UKAS ENVIRONMENTAL MANAGEMENT 051

〈環境ISO14001〉とは

スイス・ジュネーブに本部がある国際標準化機構による環境に配慮した取り組みを行う企業や機関を認定するための環境管理・監査規格。環境に関する方針・目標の設定から、運用、達成状況のチェック、全体の継続的改善までの一連のシステム化が評価の対象となっています。

TODOROKI CAMPUS

都市生活学部

“都市生活”という新しい概念にもとづいて、「都市のライフスタイル」「都市のマネジメント」「都市のデザイン」「都市のしくみ」という4つの領域から、新時代の都市づくりを総合的にマネジメントできる人材を育成しています。生活者ニーズの把握から、企画立案、事業推進、管理運営までトータルに行うためのスキルを醸成します。実社会での豊富な経験と能力を持つ充実の教員陣が、新鮮で実践的な学びの機会を提供します。

ビジネススキルの修得

コンピュータを自在に使いこなす能力は、今やビジネスで欠かせないスキルです。都市生活学部では、学生全員がノートPC必携。コンピュータ操作や理論の基本から、デザイン·コンピューティング(CAD)、調査·設計、コンピュータを駆使してプレゼンテーションができる力を養います。

プロジェクト体験

1·2年次ではITスキルや社会科学の基礎知識をしっかり身につけます。3年次からは自分の興味のある分野を選んで、体験的、実践的な「プロジェクト演習」を行いながら、専門知識をさらに深めていきます。そして4年次には卒業研究を実施。幅広い将来の展望を、4年間かけてじっくり絞り込んでいける考え抜かれたカリキュラムです。

国内外でのフィールドワーク

等々力から自由が丘まで電車で4分。自由が丘から渋谷までは9分。若者に人気の代官山も渋谷から2分。等々力キャンパスの好立地を生かして、街全体を舞台としたフィールドワークを行いながら、街の景観、建築デザイン、環境、ファッションなどを体験的に学習していきます。ヨーロッパおよびアジアでの都市研修も実施しています。

TOPICS

東急グループのスケールメリットを生かして 産学連携共同研究でマンションの省エネを探求

本学と東急不動産ホールディングスグループは、平成26年2月から産学連携活動を推進。その一つとして、都市生活学部は、「HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)」を装備するマンションでの電力消費量調査を実施し、その省エネ効果を検証しました。グループの強固なパートナーシップを生かした産学協同は今後も続きます。

世代を超えて数多くの人で賑わう「しんゆりマルシェ」 学生により発案されたイベントが読売新聞で紹介されました

小田急線新百合ヶ丘駅周辺で毎年秋に開かれる「しんゆりマルシェ」。都市生活学部の学生の提唱で生まれたまちおこしイベントは、本学をはじめ、9大学の学生たちと地域まちづくり団体とがパートナーシップを組み、地域活性化と多世代共生を目指す取り組みです。都市大生のさらなる活躍が期待されています。

都市生活学科

研究分野 ■都市のライフスタイル ■都市のマネジメント ■都市のデザイン ■都市のしくみ

都市文化のクリエイター、街づくりのプロデューサー、住環境のプランナーを生み育てます。

プロジェクト演習

これまで、「都市」づくりは建築・設計系などのハード面からのアプローチが多数を占め、文化・芸術や経済・産業といったソフト面からの視点に立った都市研究を行う学部・学科は例がありませんでした。ソフト思考で都市デザインに携わっている人たちは独自で学び、そのノウハウを身につけてきました。本学の「都市生活学部」は、個人の「家庭」をテーマに主婦の視点から都市を考える家政系や、道路や建造物、インフラなどの工学的な視点から都市を構築するテクノロジー系とは異なり、「都市のライフスタイル」「都市のマネジメント」「都市のデザイン」「都市のしくみ」の４つの領域から「都市」づくりにアプローチします。例えば

《1》人を集めるための広報・広告のセンス
《2》街の魅力をつくるためのブランディング
《3》街づくりを資金面で立案するファイナンスプランニング

このような、さまざまな知識・技術を統合し都市の魅力をデザインできる人材を育てる新しい学問といえます。デザインとマネジメントのセンスを複合的に保有し、これからの都市づくりをリードする人材や、「都市生活」という総合的な概念のもとに「プロジェクト・マネジメント」を進めることができる能力を持った人材の育成を目指しています。

研究室

◎経営戦略研究室
◎まちづくり会計研究室
◎マーケティング研究室
◎プロジェクトマネジメント研究室
◎ひとあつめ空間研究室
◎住宅生産研究室
◎空間生成研究室
◎空間デザイン研究室
◎インテリアプランニング研究室
◎環境デザイン研究室
◎ユニバーサルデザイン研究室
◎都市プランニング研究室
◎都市インフラストラクチャー研究室
◎都市再生研究室
◎コミュニティマネジメント研究室

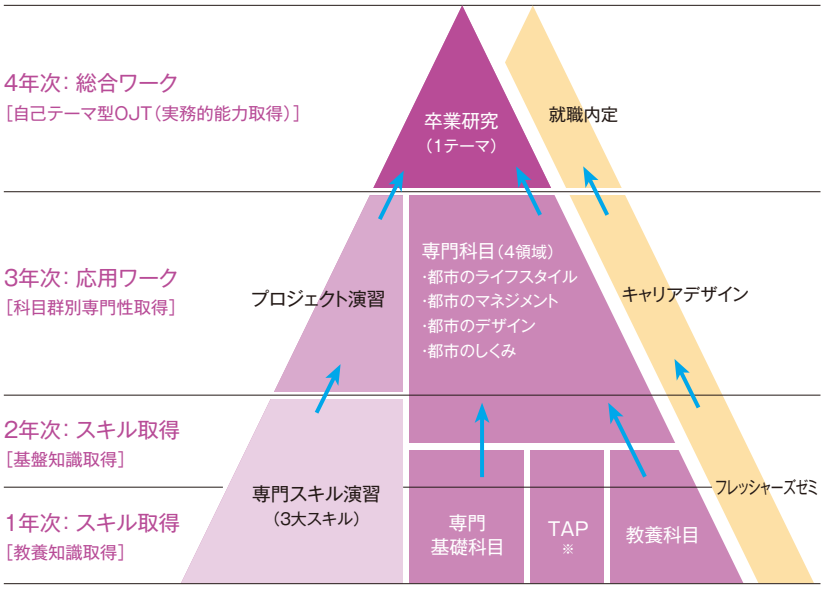
卒業後の進路

商品開発クリエイター（流通、メーカー）、文化・芸術イベントのプロデューサー、広告プランナー（広告代理店）、編集者（出版社）、トラベルコーディネーター（旅行業、航空、鉄道）、インターネット開発クリエイター、都市開発プロデューサー（デベロッパー）、都市プランナー、街づくり担当公務員、不動産ビジネスマン（不動産会社）、資産投資マネージャー（金融）、住宅デザイナー（ハウスメーカー）、建築デザイナー（建設会社）、住宅・関連商品開発クリエイター（メーカー）、インテリアデザイナー・コーディネーター、建築家・建築コンサルタント など

カリキュラムの特色

都市づくりの専門力を段階的にスキルアップ

生活者ニーズ・社会課題の把握から、企画立案、事業推進、管理運営に至るまで、新時代の都市づくり・価値ある都市生活を総合的にマネジメントするための実践的なスキルを学んでいきます。



※東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）に、都市生活学部では参加対象学部（4学部）の中で最も多い、90名の参加を予定しています。1年次の準備教育と、2年次5ヶ月間のオーストラリア留学を通して、国際人を育成をします。

プロフェッショナルな教員陣

豊富なキャリアに基づいた「生きた授業」を展開

都市生活学部では様々な側面から都市を学んでいきます。経営学、経済学、社会学、法学、都市工学、建築学、デザインに関する専任教員のほか、実践的な街づくりを手がけた専門家など、実社会で活躍中の多彩な分野のプロフェッショナルを教員として招きます。いずれも都市生活の実務において豊富なキャリアや、数々のプロジェクトに携わった経験を持っています。それらの体験にもとづく生の情報を活用した授業を展開していくことで、実社会に直接触れながら学ぶことができます。

TODOROKI CAMPUS

人間科学部

子どもの成長、子育て、子どもを取り巻く様々な出会い。そのなかで育まれる子どもの人格形成について理解を深めながら、子どもの健やかな成長を促すための専門知識や技能を修得していきます。さらに、子どもの成長に関わる人々を支え、子育ての機能を活性化させるための社会的な知識と実践力の養成を通じて、児童学を総合的に学習します。

子育て支援センター「ぴっぴ」での実習

人間科学部のある等々力キャンパスには、地域の子育てを支援するための施設「ぴっぴ」が設置されています。平成16年に開設され、今も1日約100名の親子が利用するこの施設で、学部生は2年次より「子育て支援体験」の実習を開始し、親子の遊びを観察したり、保護者とのかかわり方を学びます。キャンパス内には「ぴっぴ」を利用する親子が数多く行きかい、いながらにして子育て、保育、幼児教育の醍醐味を体感できます。

体験プログラム

子どもが体験を通じて成長するように、保育者もまた数多くの体験から実践力を身につけることが求められます。本学部では、学内の子育て支援センター「ぴっぴ」で保護者や子どもとのコミュニケーションを図る「子育て支援体験」、大学近くの農業体験用畑や等々力周辺などで自然と親しむ「生活と自然体験」、協定校のウーロンゴン大学やカンタベリー大学における幼児教育研修などを通した「異文化理解体験」、スタジオシアターを活かした「児童文化・自己表現体験」の4つの体験プログラムを用意して、理論だけに終わらない、保育実践力を育成していきます。

TOPICS

保育・幼児教育にもグローバルな視点が不可欠 オーストラリアの大学から研修生受け入れが実現

オーストラリア東海岸のニューサウスウェールズ州にあるウーロンゴン大学と協定関係にある本学。同大学が豪州政府の助成金制度に採択されたことをきっかけに、本学への研修が実現しました。平成27年5月18日から29日まで、幼稚園実習、保育所見学、茶道体験など、児童学科の教職員や学生たちと充実した時間を過ごしました。来年3月には本学部の学生がウーロンゴン大学で研修を受けます。

保育の質をさらに向上させるため 世田谷区公立保育所玉川地区園長会と協定を締結

人間科学部では横浜市私立幼稚園協会、川崎市保育会、都筑区役所並びに都筑区民間保育園園長会、世田谷区公立保育所玉川地区園長会と連携協定を締結しています。この協定は保育課題に関わる教育・研究などを通して、保育の質的向上に貢献していくことが目的。インターンシップや、保育学に関わる事業を推進し、より良い保育のありようを探ります。

児童学科

子ども、保護者、地域社会を深く理解し、「子育て」を支えていく力を身につけます。

女性の社会進出や少子化・核家族化の進展に伴い、保育施設・幼児教育機関への保護者ニーズが高まり、子育て支援を含めた社会的な要請も大きくなっています。さらに、家族や地域とのつながりが希薄になりつつあるなかで、子育ての悩みを相談できずにいる保護者も増加しています。このような状況から、保育士や幼稚園教諭といった保育者には、子どもだけに目を向けるのではなく、子育てに悩む保護者とかかわり、支援できる人材が求められています。本学科では、恵まれた教育環境の中で、さまざまな教育プログラムの実践から、子どもたちの自発性や好奇心を喚起し、相手を思いやる気持ちを育むことができる保育者の育成を目指します。加えて、乳児保育、延長保育、一時保育、病後児保育などの多様な保育、保護者の相談に応じるなどの地域の子育て支援といった現代的社会ニーズにもしっかりと応えられる能力を備えた保育者を育成します。

保育の表現技術（音楽表現）

保育の表現技術（造形表現）

研究室

◎小川研究室（保育学・児童学）
◎小林［由］研究室（ドラマ／演劇教育・児童演劇）
◎井戸研究室（発達心理学）
◎岩田研究室（音楽教育学・子ども文化論）
◎内藤研究室（児童文化・保育学）
◎早坂研究室（公衆衛生・健康医学）
◎根津研究室（乳幼児教育学）
◎倉田研究室（児童福祉・保育）
◎石井研究室（幼児教育）
◎髙橋研究室（身体表現・舞踊教育論）
◎紺野研究室（発達・障害）
◎山藤研究室（ART・現代美術・アートプロジェクト）
◎木内研究室（日本文学・昔話・幼年童話）
◎伊藤研究室（子ども家庭福祉・社会福祉）
◎園田研究室（相談援助・障害福祉）

卒業後の進路

保育所、児童福祉施設、幼稚園、認定こども園、子ども関連産業（アパレル・玩具・出版ほか）、官公庁（児童行政関係・子育て支援関係など）、大学院進学・留学　など

４つの体験プログラム

子どもの育成に必要な「感性」と「実践力」を育む

「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」の４つの体験プログラムを用意。プログラムを単に体験するだけでなく、学生一人ひとりが理論として自分の中で体系化できるよう支援し、コミュニケーション力を高め、子どもたちの自主性を育む“実力”の備えた人材を育成します。

1 子育て支援体験

1日100名程度が利用する学内子育て支援センター「ぴっぴ」（等々力キャンパス内に設置）を学びのステージに、保護者や子どもとの触れ合いを通じて、きわめて実践的な体験をします。

2 生活と自然体験

等々力周辺などの豊かな自然環境の中で、子どもと大人に関わる人として大切な「センス・オブ・ワンダー」を磨くとともに、キャンパス近くの畑で農業体験を通じて、食育の基本概念を学びます。

3 異文化理解体験

異文化を背景に育った人々と関わる力を育成するため、コミュニケーションや異文化を理解するための科目を多彩に配置。希望者には、オーストラリア、ニュージーランドで幼児教育研修を実施します。

4 児童文化・自己表現体験

国内の児童関連学部では唯一の本格的な多目的施設「スタジオシアター」を活用し、演劇、ダンスなどを通じて、感性を高め、自己表現力とコミュニケーション能力を磨いていきます。

研修の場　●子育て支援センター「ぴっぴ」　●農業体験用畑　●海外幼児教育研修　●スタジオシアター　など

考察力を磨き、専門性を深めるカリキュラム

高度な保育力を培うため、1年次に「基礎ゼミ」を導入、2年次は「研究テーマの探索」、3年次の「特別研究」を経て4年次には「卒業研究」として卒業論文をまとめます。4年間の学びを通して専門理論・知識を獲得し、実践力を育みます。

- 1年次　基礎能力を身につける（基礎ゼミ）
- 2年次　研究テーマの探索
- 3年次　特別研究（卒業研究の前段階）
- 4年次　卒業研究

TODOROKI CAMPUS

等々力キャンパス

都市生活学部 | 人間科学部 | 大学院環境情報学研究科（都市生活学専攻）

等々力渓谷のある東急大井町線「等々力駅」から徒歩10分の閑静な住宅街に位置し、都市フォーラムやスタジオシアターなど、体験型の施設も充実しています。

プロジェクト スタジオ

都市生活学部での学びの集大成である卒業研究に取り組むため、ハイスペックなコンピュータと、ディスカッションするためのミーティングスペースが設置されています。

都市フォーラム

都市生活学部の授業を通じて作り上げられた学生の作品・プランニングボード、研究成果の展示発表の場として使用可能な、大型スクリーンを備えた多目的スペースです。

スタジオシアター

ワークショップと本格的な乳幼児のための演劇やダンス公演ができる多目的スタジオです。児童学科の身体に関わる授業で主に使用します。

ピアノ演習室（31室設置）

児童学科のピアノ演習では、きめ細やかな個別指導を行います。連弾のできる部屋も含めた31室には、エアコンも完備しており、快適に練習できます。

図書館

専門書を中心に約18万冊の資料を所蔵。館内には、グループスタディルーム、視聴覚コーナー、グローバルイングリッシュルームなども設置し、学習や研究活動の支援拠点となっています。

農業体験用畑

児童学科の「生活と自然体験」プログラムでは、1年間、実際に野菜を育てる農業体験を通じて、自然の大切さと食育の基本概念を学びます。

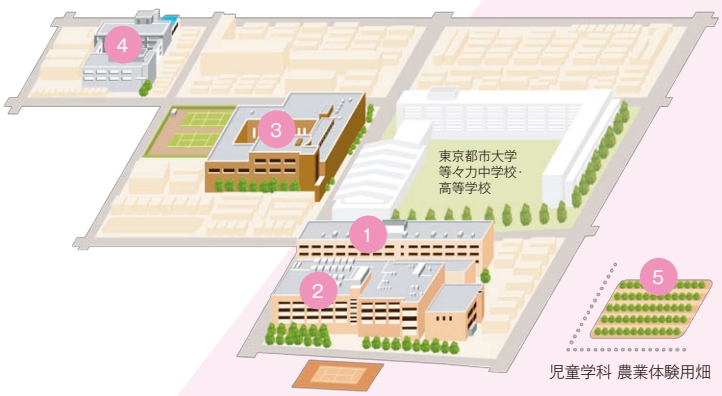
学生食堂

ゆったりくつろげる学生食堂。学生利用の少ない時間帯には一般にも開放しているため、子育て支援センター「ぴっぴ」に訪れた親子や、近隣の人々の憩いの場にもなってます。

学生ホール

学生が授業の合間にリフレッシュするための学生ホールは、白を基調とした明るい空間で、文具や書籍を販売する店舗、軽食や飲み物を販売する売店が整備されています。

① 1号館	教室、実習室、ピアノ演習室、音楽室、図画工作室、コンピュータ教室　など
② 2号館	児童学科「スタジオシアター」、都市生活学科「都市フォーラム」、教室、実習室、コンピュータ教室、研究室、学生ホール、売店 など
③ 3号館・図書館	都市生活学科「プロジェクト スタジオ」、子育て支援センター「ぴっぴ」、児童学科「実習指導室」、事務局、学生ラウンジ、学生食堂、コンピュータ教室、研究室、中庭・フリースペース
④ 総合研究所	
⑤ 農業体験用畑	



SETAGAYA / YOKOHAMA / TODOROKI CAMPUS

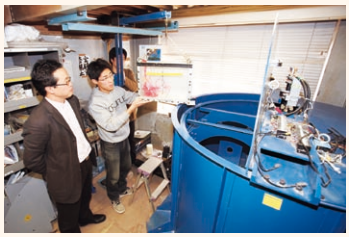
大学院

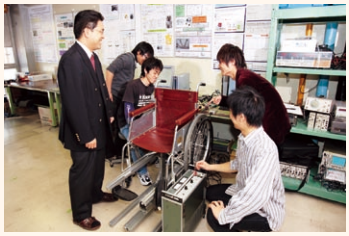
大学院の充実度、研究内容の質は、学部の教育レベルの高さに結びつき、本学の修士課程定員は261名と、私立工学系大学院でトップクラスの規模を誇ります。工学研究科は昭和41年の開設以来、高度な専門性と技術力を備えた人材を輩出し、平成22年には早稲田大学との共同大学院『共同原子力専攻』を設置、現在は10専攻となっています。環境情報学研究科は平成13年に開設。『環境情報学専攻』に加え、平成25年に『都市生活学専攻』を設置、「環境」「情報」「都市生活」の分野で、社会の要請に応える人材育成に努めています。

工学研究科 修士課程 博士後期課程

- 機械工学専攻
- 機械システム工学専攻
- 電気電子工学専攻
- 生体医工学専攻
- 情報工学専攻
- 建築学専攻
- 都市工学専攻
- システム情報工学専攻
- エネルギー化学専攻
- 共同原子力専攻
  （早稲田大学との共同大学院）

産業技術の進展に伴い、より高度な知識や技術および開発にたずさわる人材への需要が年々高まっており、学部卒業後さらに工学に関する学術の応用について、研鑽を積むことが期待されています。大学院工学研究科の目的は、修士課程では、広い視野に立って深遠な学識を身につけ、専門分野における研究開発能力または先端的な専門性を必要とする職業に不可欠な技能を身につけることにあります。博士後期課程では、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的職業に従事するのに必要な研究能力およびその基盤となる豊かな学識を養うことにあります。当研究科では、これらの目的を達成するための教育・研究の充実を図っています。平成23年4月から博士後期課程では、社会人入学生を積極的に受け入れる制度を充実させています。





《TOPICS》平成28年4月、都市工学専攻に社会人対象の「社会基盤マネジメントプログラム」を設定予定。

環境情報学研究科

環境情報学専攻 修士課程 博士後期課程

環境情報学専攻は、一言でいえば「地球環境と調和する人間活動」や「人にやさしい情報活動」を対象にして、これらの活動を可能とするための本質を探究するとともに、様々な具体的な活動を、どうデザインし、どう実践していくかについて高度な教育と研究を行っています。修士課程では、「地域・都市環境」「環境マネジメント」「情報システム」「コミュニケーション環境」の4つの領域における研究・教育を、博士後期課程では、「環境」「情報」の2つの領域における研究・教育を行っています。両課程とも、先端的な研究・教育を通じて、高度な専門性を獲得しながら、論理力や構成力、表現力の育成にも注力。学内外の発表会・学会など、プレゼンテーションの機会を多く用意しています。

都市生活学専攻 修士課程

都市生活学専攻は、本学都市生活学部における独創的な「都市生活学」をさらに深化させたテーマについて、「環境と都市生活」「情報と都市生活」といった対応関係の中から、発展的に研究・教育する社会科学系の大学院です。授業や研究指導は原則として等々力キャンパスで実施。生活者のニーズに立脚した新しい時代の空間・商品・サービスを構想・企画（デザイン）し、その開発・実現（ディベロップメント）と、持続的運営のための事業推進・管理運営（マネジメント）を実践するための総合的な科学とその教育研究を推進します。各分野の専門家と協働しながら、生活者のニーズを、デザイン・ディベロップメント・マネジメントできる企画・実行型の人材育成に力を注いでまいります。

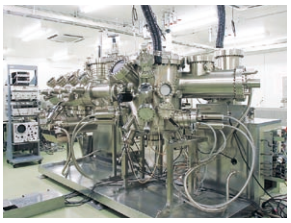
総合研究所

等々力キャンパス

平成16年4月に開設された総合研究所は、本学の理念である『持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究』を実現すべく、最先端の研究機器を導入し、常に社会のニーズに即した研究テーマを探求しています。現在は、ICTの省エネルギー化を可能とする光電子融合デバイスの研究を進める「ナノエレクトロニクス科学研究センター」と、高速道路や鉄道などの社会インフラの再生技術構築を進める「都市基盤施設の再生工学研究センター」の2つを核にして構成されています。平成27年には、「高効率水素エンジン・エンジントライボロジー研究センター」、「応用生態システム研究センター」を新設し、一層の研究強化を図っております。学内はもとより、企業、他大学、海外の研究機関とともに共同研究を積極的に推進することで、学生の視野を広げ自らの研究をさらに発展させる高度な教育を目標としています。

ナノエレクトロニクス科学研究センター

高度情報化社会の発展に寄与するエレクトロニクス。その基幹となるシリコンをベースとした半導体を、ナノレベルで重点的に研究・教育しています。ナノ領域におけるシリコン系材料作製とその評価、ナノデバイスの開発、デバイス集積回路設計技術の確立など、多岐にわたる研究を本学研究者を中心に、他大学・研究機関の客員教授が共同で推進。すでに国際会議や学会などで、研究成果が発表され、大きな話題を集めています。



シリコン系分子線エピタキシー装置
シリコン系ヘテロ構造を
単原子層の精度で作製する装置

［主な研究テーマ］
- シリコン系ナノ構造の作製と物性評価に関する研究
- シリコン系ナノデバイスの開発
- シリコン系発光デバイスの開発
- シミュレーションによるシリコンナノ構造とデバイスの設計技術の開発
- シリコン系デバイスの低消費電力化の研究
- SiGe系のデバイスの超高速化と光配線に関する研究
- シリコン系高効率太陽電池の研究

都市基盤施設の再生工学研究センター

現在、首都高速道路をはじめとする都市内高速道路に疲労などの劣化が進行し、その大規模な更新、改築、修繕が現実的な課題となっています。本研究センターは、道路のほか、鉄道、上下水道、エネルギー、通信などの都市基盤に生じ始めている経年による劣化や損傷に対して、今後100年間安全かつ安心して使い続けられるようにするための再生技術の構築を目指し、研究を進めます。

［主な研究テーマ］
- 都市インフラの健全度評価とマネジメント
- 都市インフラの劣化検出と健全度モニタリング
- 都市インフラの補修、補強、改善、更新
- 都市インフラの耐震性向上
- 都市インフラの耐震リスク評価

原子力研究所

王禅寺キャンパス

昭和35年、原子力の平和利用と技術開発を目的として開設された当研究所は、長年の経験と実績に基づいて、社会が求める安全を実現する原子力技術者育成のために利用されています。当初は全国の大学の共同利用施設として活用され、現在は、放射性同位元素の取扱い施設としてリニューアルを行い、本学原子力安全工学科、早稲田大学との共同大学院での原子力・放射線実験実習施設として使用されています。放射線モニタリングデータの提供などの原発事故支援、市民への放射線教育や放射能測定を実施し、社会に向けて情報提供やリスクコミュニケーションの普及活動を行うなかで、学生自身が原子力について考えを深める場となっています。

地球環境問題の解明と福島支援活動

国内外研究機関と共同で、社会的関心の高い地球環境問題および福島事故も含めた原子力に係る安全環境の調査・解明を、極微量放射化分析技術を駆使して取り組んでいます。

［主な研究テーマ］
- 海洋や大気中の微量元素や放射性核種の分布や挙動の調査・分析
- 高レベル放射性廃棄物の超深地層処分における安全環境の実証
- 福島の森林、河川、平野および学園の汚染状況の調査・分析

原子炉シミュレータ実験実習と廃止措置研究

廃止措置中の武蔵工大炉の制御盤や運転実績データベースを活用した原子炉シミュレータを開発し、学生・大学院生の実験実習に供するとともに、原子炉制御理論の研究を行っています。また、廃止措置中の原子炉を利用した技術開発・研究も行っています。

［主な研究テーマ］
- 原子力施設のモニタリングシステムの開発
- 中性子スペクトルを測定する検出器の開発
- 廃止措置技術の研究　●廃止措置中の原子炉施設の安全規制のあり方の研究

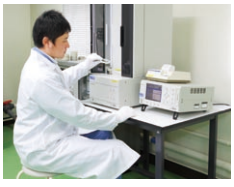
放射線による新たな技術の創出

平成25年に新たに1.7MV静電加速器を導入し、この加速器の構築作業を通じて、保守や管理についても学べる環境を整えています。今後は、原子炉材料の元素分析等を実施する計画です。

［主な研究テーマ］
- 加速器の構築及び元素分析等の実用化
- ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の高度化研究
- 中性子線を利用した可視化技術［中性子ラジオグラフィー（NRG）］

教育・研究を支える放射線管理とリスクコミュニケーション

原子力や放射線の利用は施設周辺の公衆と環境、放射線作業従事者、施設・設備の安全確保を図った上で始めて施設、設備を活用でき、教育・研究を行うことができます。放射線管理の専門家が適切な設備・機器を整え、維持し、人と環境に目配りして、教育・研究を支えています。



［関連する業務］
- 放射線教育・リスクコミュニケーション
- 外部利用（施設および機器の利用／受託分析）
- 外部との共同研究および委託研究

Data File

■ キャンパスの大きさ（平成27年5月1日現在）

校地総面積	223,421.04㎡
［内 訳］	
世田谷キャンパス（工学部・知識工学部）	72,699.87㎡
横浜キャンパス（環境学部・メディア情報学部）	64,687.96㎡
等々力キャンパス（都市生活学部・人間科学部）	11,531.00㎡
原子力研究所	75,258.00㎡
総合研究所	3,659.00㎡

校舎総面積	107,377.48㎡
［内 訳］	
世田谷キャンパス	72,978.18㎡
横浜キャンパス	21,403.71㎡
等々力キャンパス	14,326.18㎡
原子力研究所	2,615.44㎡
総合研究所	4,212.89㎡

■ 教職員数（平成27年9月1日現在）

単位:人

区 分	工 学 部	知識工学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部	共通教育部	総合研究所	国際センター	合 計
学長・副学長	4									4
教 授	51	21	14	16	10	6	12	3	1	134
准教授	31	10	6	5	4	7	14	—	—	77
講師（専任）	17	12	1	1	1	2	11	1	1	47
（講師・非常勤）	(65)	(21)	(31)	(10)	(27)	(16)	(151)	—	—	(321)
助 教	2	—	—	—	—	—	1	1	—	4
助 手	2	1	—	—	—	—	3	—	—	6
研究助手	6	—	3	—	—	—	—	—	—	9
技術職員	19	5	—	—	—	—	1	—	—	25
事務局長	1									1
事務職員	92		28		23		—	—	—	143
専任教職員合計	274（学長・副学長・事務局長含む）		74		53		42	5	2	450

※特任教員（教授、准教授、講師）を含む。

■ 予算規模／資金収支予算書

単位:千円

科 目		平成27年度	平成26年度	増 減
収入の部	学生生徒等納付金収入	10,411,100	10,443,507	△ 32,407
	手数料収入	491,166	486,448	4,718
	寄付金収入	47,736	43,995	3,741
	補助金収入	773,958	791,147	△ 17,189
	国庫補助金収入	770,936	768,089	2,847
	地方公共団体補助金収入	622	562	60
	学術研究振興資金収入	2,400	22,496	△ 20,096
	受取利息・配当金収入	161,953	216,421	△ 54,468
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	434,146	283,059	151,087
	雑収入	187,422	320,330	△ 132,908
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,139,540	2,330,590	△ 191,050
	その他の収入	259,680	251,056	8,624
	資金収入調整勘定	△ 2,348,109	△ 2,580,804	232,695
	収入の部合計	12,558,592	12,585,749	△ 27,157
支出の部	人件費支出	5,622,668	5,773,600	△ 150,932
	教育研究経費支出	3,716,967	2,915,844	801,123
	管理経費支出	717,871	621,276	96,595
	借入金等利息支出	8,859	10,797	△ 1,938
	借入金等返済支出	180,561	88,870	91,691
	施設関係支出	396,345	292,050	104,295
	設備関係支出	363,014	269,554	93,460
	資産運用支出	114,000	1,657,000	△ 1,543,000
	その他の支出	166,841	138,869	27,972
	〔予備費〕	50,000	50,000	0
	資金支出調整勘定	△ 158,777	△ 129,920	△ 28,857
	支出の部合計	11,178,349	11,687,940	△ 509,591
	当年度資金収支差額	1,380,243	897,809	482,434

■ 文科省科学研究費助成事業（科研費）採択状況

	採択件数	配分額※1（千円）
2011（平成23）年度	66	126,085
2012（平成24）年度	74	147,810
2013（平成25）年度	83	176,540
2014（平成26）年度	81	153,100
2015（平成27）年度※2	79	142,730

※1 間接経費含む　※2 平成27年9月1日現在

■ 受託研究受入状況

	件 数	受入額※1（千円）
2010（平成22）年度	134	183,696
2011（平成23）年度	113	249,611
2012（平成24）年度	138	341,048
2013（平成25）年度	152	371,532
2014（平成26）年度	162	629,783

※1 間接経費含む

■ 学部学生数（平成27年9月1日現在）

単位:人

学　部	学　科	1年	2年	3年	4年	合　計
工　学　部	機械工学科	126 (5)	114 (5)	150 (9)	118 (7)	508 (26)
	機械システム工学科	108 (4)	108 (10)	116 (12)	113 (3)	445 (29)
	原子力安全工学科	38 (6)	38 (3)	42 (3)	39 (3)	157 (15)
	生体医工学科	—	1 (0)	4 (0)	52 (10)	57 (10)
	医用工学科	67 (17)	64 (18)	55 (12)	—	186 (47)
	電気電子工学科	107 (8)	131 (6)	136 (7)	103 (6)	477 (27)
	エネルギー化学科	71 (18)	98 (15)	71 (5)	83 (9)	323 (47)
	建築学科	115 (39)	119 (36)	152 (39)	109 (24)	495 (138)
	都市工学科	111 (16)	106 (10)	99 (7)	110 (10)	426 (43)
	工学部　小計	743 (113)	779 (103)	825 (94)	727 (72)	3,074 (382)
知識工学部	情報科学科	100 (19)	114 (13)	117 (15)	101 (9)	432 (56)
	情報ネットワーク工学科	—	1 (0)	17 (0)	58 (3)	76 (3)
	情報通信工学科	70 (6)	73 (9)	69 (6)	—	212 (21)
	応用情報工学科	—	—	—	1 (0)	1 (0)
	経営システム工学科	79 (14)	91 (10)	110 (11)	72 (12)	352 (47)
	自然科学科	32 (9)	32 (12)	43 (21)	37 (11)	144 (53)
	知識工学部　小計	281 (48)	311 (44)	356 (53)	269 (35)	1,217 (180)
環境情報学部	環境情報学科	—	—	—	246 (51)	246 (51)
	情報メディア学科	—	—	—	282 (66)	282 (66)
	環境情報学部　小計	—	—	—	528 (117)	528 (117)
環　境　学　部	環境創生学科	103 (19)	93 (19)	112 (32)	—	308 (70)
	環境マネジメント学科	72 (17)	72 (19)	140 (26)	—	284 (62)
	環境学部　小計	175 (36)	165 (38)	252 (58)	—	592 (132)
メディア情報学部	社会メディア学科	92 (42)	108 (38)	101 (41)	—	301 (121)
	情報システム学科	103 (21)	115 (24)	121 (32)	—	339 (77)
	メディア情報学部　小計	195 (63)	223 (62)	222 (73)	—	640 (198)
都市生活学部	都市生活学科	175 (75)	168 (63)	186 (92)	179 (84)	708 (314)
人間科学部	児童学科	103 (93)	99 (84)	110 (100)	113 (91)	425 (368)
学部 合計		1,672 (428)	1,745 (394)	1,951 (470)	1,816 (399)	7,184 (1,691)

（　）内は女子内数

■ 出身高校所在地別学生数（平成27年9月1日現在）

単位:人

県名	工学部	知識工学部	環境情報学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部	合計
北海道	22	7	4	3	4	3	0	43
青森県	7	1	1	0	2	3	0	14
岩手県	5	0	1	0	0	3	0	9
宮城県	23	9	2	7	4	8	1	54
秋田県	6	1	3	2	1	1	0	14
山形県	1	3	1	0	1	2	1	9
福島県	31	15	5	7	1	6	1	66
茨城県	86	38	16	31	19	27	2	219
栃木県	59	12	10	12	7	7	2	109
群馬県	31	7	2	5	7	6	6	64
埼玉県	174	72	22	27	26	40	13	374
千葉県	104	47	9	18	13	30	16	237
東京都	907	349	152	184	194	233	203	2,222
神奈川県	1,209	515	213	241	291	237	158	2,864
新潟県	31	5	5	1	5	4	0	51
富山県	3	4	0	2	3	3	0	15
石川県	7	3	0	2	4	0	1	17
福井県	3	1	0	1	0	0	0	5
山梨県	40	10	7	5	9	11	0	82
長野県	29	11	8	5	2	16	6	77
岐阜県	3	2	1	1	1	2	1	11
静岡県	138	54	31	22	26	26	9	306
愛知県	26	6	3	1	0	6	0	42
三重県	9	3	0	2	2	0	0	16
滋賀県	1	0	0	0	0	0	0	1

県名	工学部	知識工学部	環境情報学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部	合計
京都府	2	1	1	1	1	0	0	6
大阪府	4	3	1	0	0	1	0	9
兵庫県	2	3	1	1	1	3	1	12
奈良県	3	1	0	0	0	0	1	5
和歌山県	3	0	1	0	1	1	0	6
鳥取県	1	0	0	0	0	0	0	1
島根県	4	0	0	0	0	0	0	4
岡山県	5	1	1	0	0	2	1	10
広島県	11	5	1	0	2	1	0	20
山口県	3	1	1	2	0	0	0	7
徳島県	3	0	0	0	0	0	0	3
香川県	2	1	1	0	0	0	0	4
愛媛県	3	0	2	0	2	0	1	8
高知県	7	0	2	0	0	2	0	11
福岡県	11	6	2	1	2	5	0	27
佐賀県	0	0	0	1	2	0	0	3
長崎県	4	3	1	1	0	0	0	9
熊本県	0	1	0	0	0	1	1	3
大分県	4	0	0	0	0	3	0	7
宮崎県	8	4	0	0	1	2	0	15
鹿児島県	4	2	1	1	1	0	0	9
沖縄県	2	0	0	0	0	1	0	3
その他	33	10	16	5	5	12	0	81
合　計	3,074	1,217	528	592	640	708	425	7,184

■ 大学院学生数（平成27年9月1日現在）

単位:人

研究科	専攻	修士課程		博士前期課程	博士後期課程			合計
		1年	2年	2年	3年	4年	5年	
工学研究科	機械工学専攻	28 (0)	20 (0)	3 (0)	—	1 (0)	—	52 (0)
	機械システム工学専攻	27 (3)	32 (2)	—	1 (0)	—	2 (0)	63 (5)
	電気電子工学専攻	26 (1)	29 (0)	1 (0)	1 (0)	—	2 (0)	58 (1)
	生体医工学専攻	22 (3)	24 (6)	—	—	—	—	46 (9)
	情報工学専攻	28 (3)	50 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	83 (5)
	建築学専攻	28 (5)	37 (7)	—	1 (1)	1 (0)	1 (1)	68 (14)
	都市工学専攻	18 (7)	17 (0)	—	—	—	1 (0)	36 (7)
	システム情報工学専攻	22 (3)	17 (3)	1 (0)	—	—	1 (0)	41 (6)
	エネルギー化学専攻	20 (2)	21 (4)	—	—	—	—	41 (6)
	共同原子力専攻	16 (1)	24 (1)	—	—	—	—	40 (2)
	工学研究科　小計	235 (28)	271 (24)	7 (1)	4 (1)	3 (0)	8 (1)	528 (55)
環境情報学研究科	環境情報学専攻	16 (5)	6 (1)	—	2 (1)	1 (0)	1 (0)	26 (7)
	都市生活学専攻	4 (0)	5 (2)	—	—	—	—	9 (2)
両研究科　合計		255 (33)	282 (27)	7 (1)	6 (2)	4 (0)	9 (1)	563 (64)

（ ）内は女子内数

■ 外国人留学生数（平成27年9月1日現在）

単位:人

国籍	工学研究科	工学部	知識工学部	環境情報学研究科	環境情報学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部	合計
サウジアラビア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
カザフスタン	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ベラルーシ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
モンゴル	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
マレーシア	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
タイ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ネパール	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
ベトナム	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
韓国	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
台湾	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
中国	7	9	5	2	6	1	1	5	0	36
合計	10	17	7	3	7	2	1	5	0	52

■ 卒業者数／修了者数

単位:人

区分	人数
工学部以前（高等工科学校、工業専門学校、短期大学部）卒業者	4,930 (16)
学士課程 卒業者総数	
工学部	52,926 (2,365)
知識工学部	1,182 (136)
環境情報学部	5,278 (1,430)
都市生活学部	489 (200)
人間科学部	306 (255)

区分	人数
大学院博士前期（修士）課程 修了者総数	
工学研究科	6,736 (392)
環境情報学研究科	305 (73)
大学院博士後期課程 修了者総数	
工学研究科	139 (7)
環境情報学研究科	8 (0)
論文博士学位取得者数	86

（ ）内は女子内数

■ 図書館 蔵書冊数

年度	世田谷キャンパス					横浜キャンパス					等々力キャンパス				
	和書（冊）	洋書（冊）	合計（冊）	雑誌種類数（タイトル）	視聴覚資料数（タイトル）	和書（冊）	洋書（冊）	合計（冊）	雑誌種類数（タイトル）	視聴覚資料数（タイトル）	和書（冊）	洋書（冊）	合計（冊）	雑誌種類数（タイトル）	視聴覚資料数（タイトル）
平成26年度	199,095	80,765	279,860	2,099	2,728	102,497	17,777	120,274	954	2,887	157,032	21,475	178,507	216	862
平成25年度	196,403	80,126	276,529	2,113	3,862	104,138	17,920	122,058	364	5,115	155,252	21,274	176,526	206	720
平成24年度	190,660	79,503	270,163	2,171	3,712	100,110	17,699	117,809	389	4,474	157,636	21,035	178,671	217	516

■ 本学卒業生の就職動向 ※就職率：就職希望者に占める就職者の割合。下記の数字は平成27年4月1日現在における就職者数を就職希望者数で除したもの。

工学部

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	417	408	97.8	32,794	210
平成25年度	410	400	97.6	27,355	236
平成24年度	476	462	97.1	24,208	237
平成23年度	382	367	96.1	19,986	256
平成22年度	390	374	95.9	18,453	225

大学院 工学研究科

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	227	225	99.1	38,808	5
平成25年度	283	278	98.2	32,530	3
平成24年度	275	268	97.5	28,585	2
平成23年度	291	282	96.9	23,464	9
平成22年度	206	204	99.0	22,259	4

知識工学部

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	170	167	98.2	15,738	59
平成25年度	172	162	94.2	13,197	74
平成24年度	184	177	96.2	11,562	61
平成23年度	135	126	93.3	7,342	82
平成22年度	111	105	94.6	7,775	90

環境情報学部

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	353	338	95.8	7,922	16
平成25年度	385	367	95.3	6,664	18
平成24年度	338	318	94.1	5,863	28
平成23年度	299	276	92.3	4,674	27
平成22年度	322	303	94.1	4,956	39

大学院 環境情報学研究科 環境情報学専攻

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	14	14	100	3,929	2
平成25年度	16	16	100	3,298	0
平成24年度	23	19	82.6	2,898	1
平成23年度	23	21	91.3	2,340	1
平成22年度	14	13	92.9	2,452	0

都市生活学部

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	145	144	99.3	3,551	2
平成25年度	163	160	98.2	3,020	5
平成24年度	146	143	97.9	2,592	9

人間科学部

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	103	103	100	3,940	2
平成25年度	92	91	98.9	3,273	0
平成24年度	88	88	100	3,689	4

大学院 環境情報学研究科 都市生活学専攻

卒業年度	就職希望者（名）	就職者（名）	就職率（%）	求人企業数（延数）	進学者（名）
平成26年度	4	4	100	3,903	0

■ クラブ・同好会加入学生数（平成27年6月1日現在）

単位：人

団体名	団体数	1年	2年	3年	4年	合計
文化団体連合会	21	302	294	288	183	1,067 [23.7%]
体育会	26	171	217	223	143	754 [16.7%]
公的な特殊団体 新聞会 吹奏楽団 放送会 世田谷祭運営委員会 横浜祭運営委員会 等々力祭運営委員会	6	120	104	84	37	345 [7.7%]
同好会	25	381	328	437	268	1,414 [31.4%]
学科研究会	19	44	42	64	17	167 [3.7%]
愛好会	15	165	176	166	104	611 [13.6%]
特別団体（ISO学生委員会）	1	24	46	47	28	145 [3.2%]
合計	113	1,207 〔72.1%〕	1,207 〔68.9%〕	1,309 〔67.0%〕	780 〔42.8%〕	4,503 〔62.5%〕

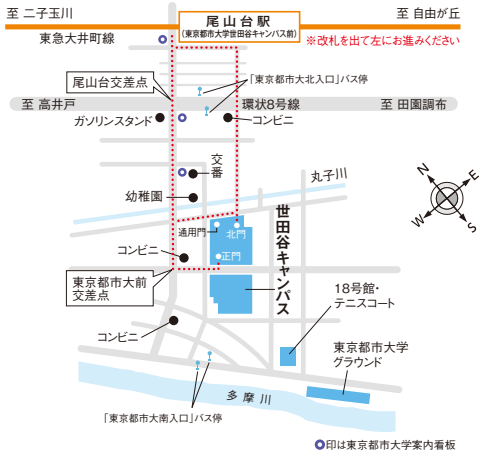
[ ]内は全加入者数に対する各団体の比率　〔 〕は各学年在学生数に対する比率

Access Map

東京都世田谷区、神奈川県横浜市の美しい街に立つ世田谷・横浜・等々力キャンパスは、いずれも閑静な高級住宅街に囲まれた文化的で絶好の学習環境の中にあります。交通至便で、通学エリアは広範囲。平成25年には、東急東横線と副都心線・西武池袋線・東武東上線の相互直通運転が開始され、さらに便利になりました。3キャンパスは、専用のシャトルバス（世田谷～等々力間約15分、世田谷～横浜間約30分）で結ばれているため、キャンパス間をスムーズに移動できるようになっています。自由が丘や、中目黒、二子玉川、渋谷、原宿、青山、恵比寿、横浜など、人気のエリアへのアクセスも良好です。

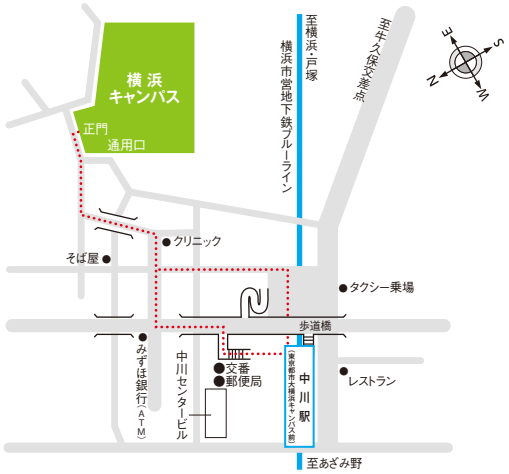
世田谷キャンパス（工学部・知識工学部）

東急大井町線「尾山台（東京都市大学 世田谷キャンパス前）」駅 徒歩12分
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1　TEL（03）5707-0104（代）



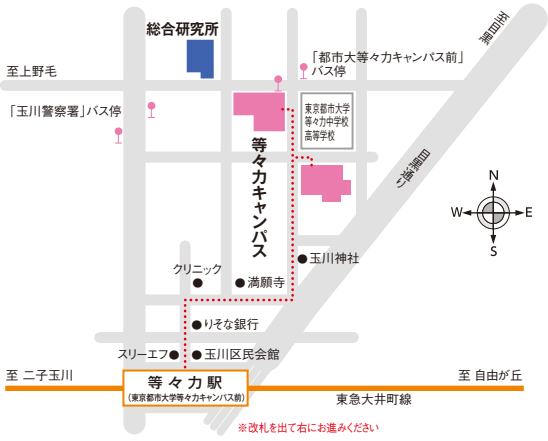
横浜キャンパス（環境学部・メディア情報学部）

横浜市営地下鉄「中川（東京都市大 横浜キャンパス前）」駅 徒歩5分
〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1　TEL（045）910-0104（代）



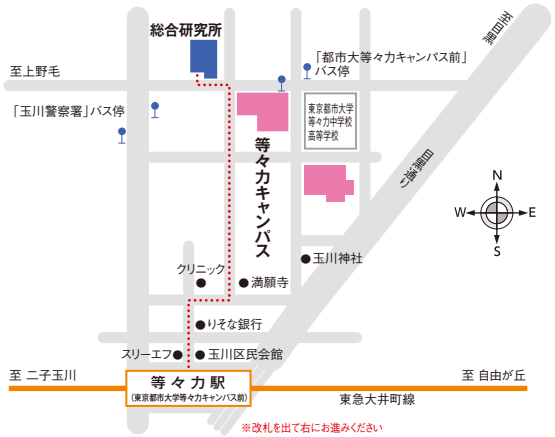
等々力キャンパス（都市生活学部・人間科学部）

東急大井町線「等々力（東京都市大学 等々力キャンパス前）」駅 徒歩10分
〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18　TEL（03）5760-0104（代）



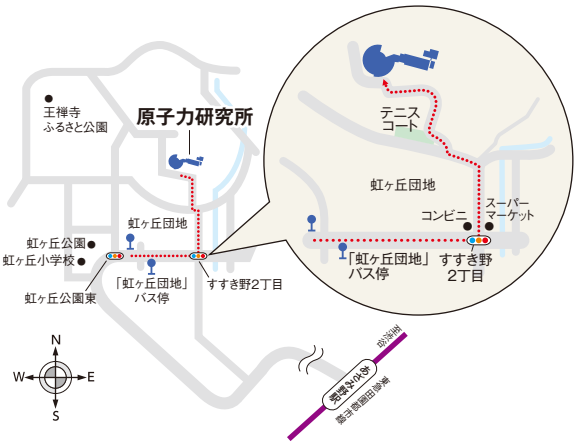
総合研究所（等々力キャンパス）

東急大井町線「等々力（東京都市大学 等々力キャンパス前）」駅 徒歩10分
〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-15-1　TEL（03）5706-3111（代）

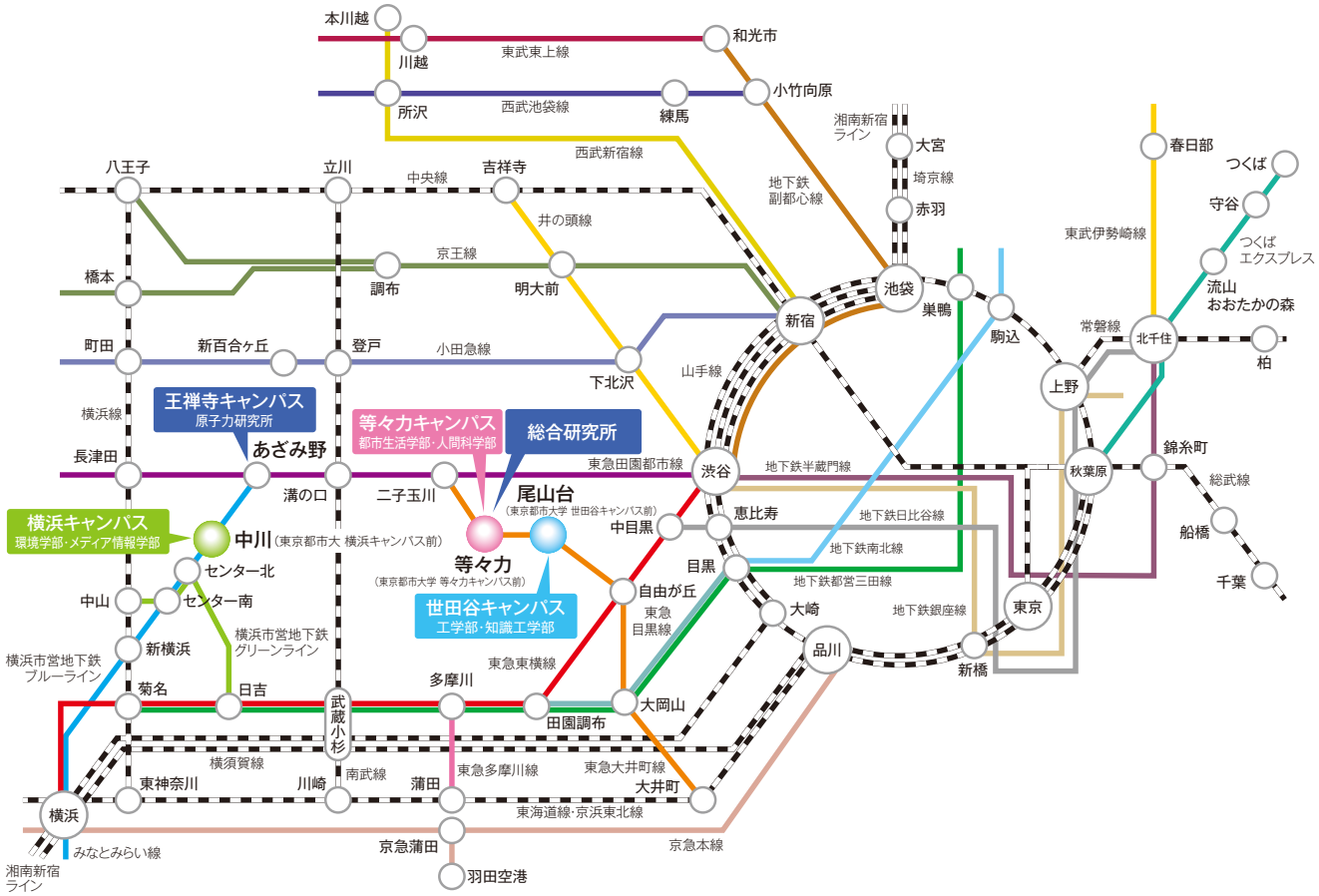


原子力研究所（王禅寺キャンパス）

東急田園都市線・横浜市営地下鉄「あざみ野」駅より路線バス「虹ヶ丘団地」バス停 徒歩5分
〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺971番地　TEL（044）966-6131（代）



交通のご案内



世田谷キャンパスへのバス交通案内

● 東急東横線・東急多摩川線 多摩川駅	東急バス［玉11系統］二子玉川駅行6分	〈東京都市大南入口〉下車徒歩3分
● 東急田園都市線・東急大井町線 二子玉川駅	東急バス［玉11系統］多摩川駅行7分	〈東京都市大南入口〉下車徒歩3分
● 東急東横線 田園調布駅	東急バス［園01系統］千歳船橋駅行5分	〈東京都市大北入口〉下車徒歩5分

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス	大学院工学研究科／工学部／知識工学部
横　浜キャンパス	大学院環境情報学研究科（環境情報学専攻）／環境学部／メディア情報学部
等々力キャンパス	大学院環境情報学研究科（都市生活学専攻）／都市生活学部／人間科学部／総合研究所
王禅寺キャンパス	原子力研究所

お問い合わせ　〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1　TEL.(03)5707-0104［企画室］　http://www.tcu.ac.jp

Japan University Accreditation Association since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED
2010. 4〜2017. 3
本学は、(財)大学基準協会の大学基準適合認定校です。

スマートフォンで大学資料をGET!
スマートフォンからも資料請求（無料）ができます。下のQRコードからアクセスしてください。